存採叢書

和名抄諸國郡鄉考

十四

291.034
To472w

和名抄諸國郡郷考卷十一

越後 喜永春部纂述
男準清校

山陽道上

成務紀五年九月山陽日影直民部省圖帳山陽陸道○西宮記カケトモハミナ○北山抄加介止毛乃道

播磨波里萬國式大

名義ハ風土記萩原里土中有井所以名萩原息長帶日賣命從韓國還上之時御船宿於此村一夜之間生萩根高一丈許仍名萩原即闕御井故云針間井○古事記傳云風土記に云云とある何とかや國名も是より出たりげに聞ゆ若然らハ榛の木に由れる名なり○和訓栞云赤染衛門集に播磨より來たる人の針をたこせと見え藤原明衡新猿樂記に諸國名產をあけたる中にも播磨の針と見えたれは針によれる名なるへしといへり是も捨かたし上代より針を出したることもえりかたし○古事記穴穗宮卷針間國○國造本紀針間國造○諸州巡覽記拾遺播磨國東ハ一谷より西ハ赤穗の西二里備前境まて凡東西二十五里あり南北は海邊より但馬因幡

国立国会図書館 29.7.22
338318

の境まて十里餘あり

國府在餝磨郡行程上五日下三日主計式行程同管十二今按官用十六郡とあれと此抄所載之外有加東加西神東神西飾東飾西揖東揖西等と見えて此抄なる郡名に東西を分たれたるのみなり田二萬千四百十四町三段三十六歩正公各四十四萬束本穎百二十二萬束雜穎三十四萬束拾芥抄二萬千三百卅六町○主税式正公同明石安加志國造本紀明石國造○風土記殘篇當郡南北十二里東西六里土地中肥魚鮮多民人中用○和訓栞云式に赤石に作る今海中に赤石を出す硯に用ゐて尤良とすと云り○今按に赤石と書たるハ允恭紀十四年九月赤石海底有真珠また清寧紀二年十一月赤石郡と見えたり○萬葉集(七)赤石門涙いまたさわけりなはれはし○民部式兵部式等みな明石なり○また萬葉集(三)ともし火の明大門(アカシノオト)また自明門(アカシノト)倭嶋(ヤマトノシマ)みゆまた同(六)明方潮干乃道なとハたゝ明の一字もてよませたりされとこハ歌なれハなり○東ハ攝津國八部郡に堺ひ南ハ淡路嶋西ハ賀古郡にかきり北ハ三木郡にかきる賀古(カコ)應神紀十三年一書云天皇幸淡路嶋而遊獵之於是天皇西望數十麋鹿浮海來之便入于播磨鹿子水門天皇謂左右曰其何麋鹿也泛巨海多來爰左右共

視而奇則遣使令察使者至見皆人也唯以著角鹿皮爲衣服耳問曰誰人也對曰諸縣君牛是年者之雖致仕不得忘朝故以己女髮長媛而貢上矣天皇悅之即喚令從御船是以時人號其著岸之處曰鹿子水門也凡水手曰鹿子蓋始起于是時也○萬葉集(三)こゝろこひしき可古能嶋所見(今按かくあれとも嶋にハあらす)○風土記當郡往昔一郡今來分東西者也東西九里南北七里土地上肥民用繁多郡中有川號賀古川出鮒鱸鯉有神一座所祭猿田彦命也合鄉八所庄保四所○兵部式賀古驛馬四十疋○諸州巡覽記高砂の半里上に賀古川の宿有海道なり高砂ハ海道にあらす

印南伊奈美　續紀延曆五年四月播磨國言四天王寺餝磨郡水田八十町元是百姓口分也而依太政官符入寺訖因茲百姓口分多授比郡營種之勞爲幹實深其印南郡戸口稀小田數巨多今當班田請遷餝磨郡置印南郡許之○萬葉集(一)かく山とみゝなし山とあひしときたちて見にてし伊奈美國波良○同(三)稻日野毛行すきかてにまたなくハしき稻見の海(今按てハとゝと通ハし用たり)○行靈抄印南野ハ二見のうらより上北のかたの廣き野をいふ明石より姫路へ行ものハ此野を通る野中の清水も此野にあり○松井河樂(備前岡山人)東行日記寛文七年印南野此野廣漠虛曠正山陽之大觀也○諸州巡覽記印南野ハ賀古川と明石との間にあり○荒木田久老播磨日記

云伊津宝かけて稲留の庄なるへしこのあたりをすへて庄内といふと休圃いへり萬葉[四]に稲日都萬辛荷の嶋とよめるハこゝにて稲日都萬を省きて稲つめといふなり○續紀神護景雲元年二月播磨國賀古印南等郡稲○同紀天平神護元年五月播磨國賀古郡印南野[古事記傳二十六云此野ハ印南郡より賀古郡にも渉れる地なるへし]○三代實錄元慶六年十二月播磨國賀古郡野印南郡今出原印南野なとも有り○節用集市南野

餝磨（シカマ）○國府　方角抄印南野より西なり○諸州巡覽記高砂より餝磨へ四里餝磨より室へ四里○同書姫路より海邊へ五十町にして餝磨津より町つゝきなり○行靈抄自福泊到于此一里手記曰川湊也口淺シ滿汐ニハ小船處々入也此川名所也姫路マヲ川船往來アリ○今按これをしかま川といふ餝磨のかちと

揖保　伊比保　續後紀承和七年六月播磨國揖保郡○今按民部式上指保と有ハ誤也又粒と書たるもあり○正濫抄式に粒の一字をかゝれたはいひつふのことく保を濁るへし○節用集揖保ィホと訓たり

赤穗　阿加保　天武紀七年四月赤穗○續後紀承和七年六月播磨國赤穗郡○今按南ハ海西ハ備前を堺ひ東ハ揖西郡を限り北ハ佐用郡を限る

佐用　佐與　天智紀初年狹夜郡○風土記

當郡東西八里南北十里一十步土地上肥民用多多出民材又紙帛皮等合郷七所保庄三○今按南ハ赤穗郡西北ハ美作を堺ひ東ハ宍粟揖西に限る

完粟　志佐波　垂仁紀三年一書云初天日槍乘艇泊于播磨國在於宍粟邑○紫芝園漫筆宍古肉字ハ下作六見字彙播州有宍粟郡長門大夫有宍戸氏皆此字也俗作完全之完誤也○諸州巡覽記宍粟郡ハ揖保川の上なり山谷の中にあり

神埼　加無佐岐　續後紀承和三年五月播磨國神埼郡荒廣田卅三町賜宗康親王○三代實錄元慶六年十二月播磨國神埼郡北河添野前河原○今按神名式神埼郡なと皆埼字を用ゐたり節用集に神（タカ）吉とあるもカムサキとサをそへて訓へし

多可　賀茂（カモ）　續紀天平元年四月播磨國賀茂郡加主政主帳各一人○三代實錄元慶六年十二月播磨國云云賀茂郡宮來河原爾可支河原○國造本紀針間鴨國造○風土記當郡東西七里南北五里一十步土地中肥民用不少郡中有神號別加茂大明神仁德天皇御宇所奉崇也合郷九所庄保□□

美囊　美奈木　所長治記別所小三郎長治ハ領播州東八郡在三木城云云また三木の城ハ前には大河流れ後にハ高山峨々として林に續て八家あり嶮峙て道狹し○惺窩文集系譜畧曰云播州三木郡紀川庄

明石郡

葛江布知衣　續紀延暦九年十二月播磨國明石郡大領外正八位上葛江我孫馬養授外正六位上○萬葉集(六)荒妙藤井乃浦爾云云同短歌にゝ藤江とあり○行靈抄明石のつゝきの浦ゝといふまた明石出口の追分より藤江をへて印南野の南の海道を通り高砂へゆく路なり○方角抄藤江のうらひかさのうらなといふゝあかしもちかし○長秋集ばりまかた藤えのうらにをつしほのからくて世にも沈みつる

明石安加之　兵部式明石驛馬三十疋○菅家文章題驛樓壁詩のかな　自註云歸州之次到播州明石驛○行靈抄明石自兵庫到于此五里或赤石　荒木田久老播磨下向日記住吉の大御神の御社を拜奉る云云神功皇后の初め此大御神を祠りたまひし御社ゝなるべし長田生田住吉廣田と相ならひてたゝしますにてもさられまた生田の長狹住吉の長狹と聞えしゝ北の山より海際に突出たる峽さきの名なるへくいまもろのさま見えたりさて此社を難波に迂されしゝ仁德の大御世ならんといへと猶ろれより後なるへきか齊明紀に住吉の大御神の松嶺とあるも今の住吉にゝあらしかし　神戸

邑美於布美　**垂見**荒木田久老日記云垂見の荒陵ハ押熊王かこ坂王の仲哀の御陵ときけゝかしこけれと登りて拜奉る埴輪多留美料に造らしゝ御陵とのてゝかしこに遺れるをいまゝ千壺といへり○神名式海神社○節用集垂水○方角抄此たるみとといふ所ゝ須磨と大倉谷との中有なり社有神殿ゝ南向なり○圖を以考ふるに東たるゝ西たるみあり　神戸

賀古郡

望理カヘリ　**長田**奈加太　三才圖會尾上大明神在加古郡長田村社領七石五斗　**住吉須美與之**　餘戸

印南郡

大國於保久爾　**益氣**風土記古賀郡益氣里有石橋傳云上古之時此橋ふれゝ天の羽衣白妙に風さへわたる八十のいはゝしらにゝあらさるか次の郡の下にも餘戸あり考へし　**佐突**續後紀承和六年二月印南郡佐突驛○今按はしめゝ佐伯なりしか後に佐突

含藝至天八十人衆上下往來故曰八十橋○夫木集雪　**餘戸**今按書寫山行幸記安室鄉并餘部庄地頭職とあるゝこれ

と轉りたるにゝあらぬにや景行紀五十一年八月天皇詔群卿曰其置神山傍之蝦夷是本有獸心難往中國故隨其情願令班邦畿之外是今播磨讃岐伊勢安藝阿波凡五國佐伯部之祖也とありこれらの證なり攝津國に佐伯山豐嶋郡池田村の北にあたりてあるをいま五月山なと唱ふるもれなしとなり

餝磨郡

菅生須加布　餘戸　英賀安加

行嚢抄阿賀浦ゝ右の方濱邊の村を云或ゝアルト共云○荒木田久老日記云十一日網干を發てたみゝ濱つたひのみちをゆく日本紀顯宗の御巻室賀の御詞に味酒餌餓の市とあるゝこの餝磨郡なる英賀なりつたの細江ゝこの英賀と餝磨の間なりといふ○赤松記英賀のいま在家遊清院○播磨古城記英賀城餝磨郡英賀庄中濱村三木右馬頭入道通近居城○諸州巡覽記玄かま津より室へ四里其間ゝ英賀と云浦あり八家多し

伊和

今按揖保郡香山郷に引たる風土記の文に伊和大神占國之時と有ゝこゝにもよしある神なるへし○三才圖會伊和大明神在宍粟郡伊和村

辛室

加良牟呂　萬葉集〔六〕過辛荷嶋時山邊宿禰赤人作歌○仙覺抄引播磨風土記云韓荷島韓之破船所漂之物就此嶋故云韓荷嶋○萬葉集略解にこの辛室のあたりにやといへりなは考ふへし

大野於保乃

英保安母　赤松記阿方村ゝ上月伊勢と申人の跡式ゝて○播磨古城記英保城餝東郡阿保大膳正次郎左衛尉赤松幕下なり國府寺村の城も守りしよし天正の比阿保善四郎と云人あり

二野美

乃安閑紀元年閏十二月上御野下御野

穴無安奈之

迎達伊多知

神名式射楯兵主神社○齋藤彦麻呂云播磨國餝摩郡射楯兵主神社ゝ大國主命をまつれるなりこの神ゝ生大刀生弓矢を持て八十神たちを追退け八尋矛をとりて惡神たちをきためゝ給ひしことを古事記神代紀等に委しくあり三木掃部頭通秋英賀筆記に伏見院御宇正應年中當社追號宣命文云大巳貴神軍師照八隅頭將也一條院御宇有丹州大江山之賊徒追戮之祈誓平均後正暦二年六月勅授正一位

巨智古知

東鑑嘉禎四年五月巨智庄

平野

比良撰集抄播磨國平野といふ所の山れふもとにうみにむかひてかれいかりなる庵をむすひて○行嚢抄明石より賀古川に至る間平野村といふあり

草上久佐乃加三

續紀寶龜四年二月餝磨郡草上驛戸〔今按草ゝ草を誤れるなり〕○兵部式草上驛馬四十疋○

338318

風土記草上郷土地中肥民用多云云公穀九十九假スチ粟四十五丸有神三座號草上明神不知奉祭時代也　周智

揖保郡

粟栖久留須　赤松記くるすと中所の上城山の要害に御父子滿祐被楯籠候各談合にて此山にて御はらをめさる　香山加古也末　姓氏錄(左京皇別)香山眞人出自敏達皇子春日王○仙覺萬葉抄引風土記云香山里(本名鹿來墓)土下上所以號鹿來墓者伊和大神占國之時鹿來立於山岑是忽似墓故號鹿來墓後至道守臣爲掌之時乃改名爲香山家內谷即是香山之谷形如垣廻故號家谷山　越部古之倍　安閑紀二年五月置越部屯家牛鹿屯家○兵部式越部驛馬五疋○十六夜日記はりまのくにてしへの庄　林田波也之多　姬路の西北にあり○三才圖會林田至江戸百五十六里地至新宮一里半至龍野二里○播磨古城記逢城揖東郡林田村東條文太郎氏秀居城　桑原久波波良　安閑紀元年閏十二月上桑原下桑原○東鑑文治二年六月拝保桑原(今按拝い揖を誤れるなり)　布勢　兵部式布勢驛馬二十疋○東鑑嘉永三年四月布施庄○風土記布勢郷土地中肥民用不少云云公穀八十九假粟三十五丸有神一座號布

勢社所祭神須佐能雄命也　上岡加無都乎加　揖保比奉　神名式揖保坐天照大神○三代實錄貞觀元年正月粒坐天照大神○諸州巡覽記班鳩乃西一里にいぼ河有此邊昔い揖保郡といふ今い揖東揖西にわかついは河を西へわたれい正條の町あり姬路より是迄四里　大市於布知　風土記土地上肥民用繁多云云公穀百九假粟五十九○兵部式大市驛馬二十疋○正濫抄備中國窪屋郡郷名にもはいちといちなるへきをかのくにの言にしたかへるか　大出於保多　播磨古城記大田城刑部少輔則弘築之赤松鉋貞五男○赤松記大田城　新田爾比多　餘戸　浦上宇良加三　東鑑文治五年三月熊野御領播磨國揖上庄事○赤松記浦上○諸國廢城考浦上城浦上氏累世此城居　小宅古伊倍　廣山比ロサ　大宅於保也介　石見伊波美　桃花藥葉云家門管領寺院事嵯峨禪惠院云云寺領者因幡國鳥取吉方郷播磨國石見郷明石郷等　中臣ナカトミ　神名式中臣印遂神社　神戸人國記圖神部とあり姬路の北に有也

赤穗郡

坂越（サコシ）細川幽齋記行ヿより播磨のむろまてゆくみちに坂越といふ在所ありその近きあたりに鍋の嶋といふあり○諸州巡覽記那波と云所坂越の近所なり是もよき町有○八野（ヤノ）東鑑文治二年六月播磨國矢野○播磨古城三才圖會大酒神社在二赤穗坂越一或作二大祥一（オホサカ）

記感狀山城（赤穗郡矢野庄）城主彌太郎（オホハラ）大原　笹磨（ササヒキ）野磨（ノヒキ）古本今昔物語ヲ元字義村七條家範資六州政資長子宇道祖

釋書等に赤穗郡山驛とあり○兵部式野磨驛馬二十疋○赤松記野間○風土記野磨鄉土地中肥民用不少云云公穀三十丸假粟二十丸　周勢

高田　兵部式驛馬二十疋○風土記高田鄉土地中肥民用繁ロロ　飛取

佐用郡

佐用佐與　續後紀嘉祥二年十二月播磨國佐用津姫神預二官社一○神名式佐用都比賣神社○大平記ロロロ佐用庄苔縄の山○同書赤松圓心に佐用庄一所許を被行○本朝通紀後編十二赤松圓心出自二村上天皇一累世領二播州佐用庄一○播磨古城記佐用郡佐用庄佐用兵庫介左衛門尉範家此城を築く圓心の甥也山名か亂に武功あり○江川（エカハ）廣行蛮抄佐用自二三日月一到二于此一二里半是い作州行順次なり

岡（オカ）慈仁武鑑赤松刑部少輔教貞所頭の内に播磨廣岡庄三百七十五町○又居城佐用郡廣岡（京都より三十七里）○豊鑑に西播磨廣瀬といふ所に宇野の某と云もの城をかまへ（今按廣岡速瀬の二所を一つにして呼へるにいあらさるか考ふへし）速瀬（ハヤセ）柏原（カシハラ）

大田（オホタ）中川（ナカカハ）兵部式中川（ウ）赤松記丹波守季房の御子のとき播磨の驛馬五疋　宇野國佐用庄赤松谷といふ所になかされたまひて其子孫すえたまふかくて五代目を則景と申此人宇野といふ所を知行し宇野の名字の元祖なり

完粟郡

三方（ミカタ）神名式御形神社　高家（タカ）　比地　狛野（コマノ）　安志　今按大平記書寫山行幸の條に當國安室鄉を御寄附有云云こゝなるへし　石保　今按東鑑壽永三年四月石作庄播磨とあるもしこれにいあらぬにや　伊和　神名式伊和坐大名持御魂神社○同頭注云伊和一宮也○一宮記伊和神社（大己貴御魂也）播磨宍粟郡　土方　節用集志方と書てシカタと訓り○別所長治記志方に櫛橋左京亮

神埼郡

埴岡　陰山（カケヤマ）播磨古城記瀬加山城神東郡瀬加村陰山郷上太田道祖同源太夫尉居城す赤松の一族陰山の郷を領し置塩の幕下なり○太尾城神東郡陰山郷　川邊（カハノヘ）播磨古城記神東郡川邊村城主大野太尾村城主太尾兵庫與次七郎左衛門尉岩崎六郎左衛門尉

的部（イクハベ）　師用集的野と書て槻田（ツキダ）イクハベと訓たり

多可郡

荒田（アラタ）神名式荒田神社○同頭注云荒田二宮也○赤松記荒田の瑞光寺　賀美（カミ）　那賀（ナカ）　資母（シモ）　黒田（クロダ）　蔓

今按々ゝ郷の々草書々の誤歟

賀茂郡

三重（ミヱ）　上鴨（カミカモ）　穗積（ホツミ）美濃國本巢郡にいへり　川内（カハウチ）　酒見（サカミ）赤松記酒見の北條○三才圖會酒見寺在加西郡酒見

大神（オホムカ）　住吉（スミヨシ）　川合（カハアヒ）播磨古城記河合城加東郡新野村城主常陸介祐尚滿祐の弟　夷俘

美囊郡

志深之々美　顯宗紀初年播磨國縮見山○古事記穴穗天皇針間國云云其國人名志目牟之家○清寧紀二年十一月縮見屯倉首忍海部造細目○古事記傳に津國有馬より播磨の姫路へゆく丹生の山田越と云道の間に今も志深と云ところ有といへり　高野多加乃　平野比良乃　吉川與加波　赤松記與河の内北河村とあかた此兩所ゝ上月伊勢と申人のあとなり　夷俘　三代實錄貞觀八年四月近江國言播磨國賀古美囊二郡夷俘長宇賀秋野尺漢公平繼等五人安山越境來在此國今按賀古美囊二郡の夷俘この抄によれゝ賀古ゝ賀茂を誤れるか

美作　美萬佐加國式上　名義ゝ平賀氏云按に美作國ゝ大山の多き國にてあれとみな因伯播磨などゝ國堺になりてあ

る山にて他國へかゝらぬ山といふゝ三坂山とて第一に高き山なり美作の國のまはらに拔出て見ゆる三里計の山越ときこゆ伯耆國に行人又湯原の湯浴に行人必こゆる山なり美作國童謠に三坂三里ゝ四里近いとうたふ山なり美作奥の人ゝ必す此山を越て出來る山なり備前國赤坂郡ゝ今ゝ善應寺たわと云坂ある故に名付たるなり夫らに依て考ふるに美作と云ゝ三坂と云大なる坂あり國れ眞中にある故に名付たるなるへし備前の國を分られけるときに名の付やうなくて其國の大山を見廻して付られたる名にもやあらん美作國ゝ昔備前と一國のときも自らに別のさまにありし國と見えたり備前國赤坂津高なとに行て見れゝ極て奥山の心地してろれより奥ゝいよ〳〵僻地ならんと思ゝる〳〵計りの地なり津高郡の建部と云に出て西河と云大川を渡りて今の美作の弓削へ出て津山の邊に行て見れゝ又大にひらけて平地ある處なり川を限りてろれより北ゝ自から別國のやうに思ゝる〳〵處なり夫故に國府を置て別に一國として治め給ひしならんか國を割れしをり巡察使なと國形をよく見てのことなるへし其ときに三坂によりて美作と名付られしと見ゆ○國造本紀美作國造

國府在苫東郡行程上七日下四日和銅六年割備前國六郡置此國

主計式行程同○平賀氏云國府苫東郡苫田郷小原村に市場と云處あり今ゝ僅の處に限りて市場と唱ふれと已前ゝ其あたりの大名とみゆ元禄年中の記錄に出たり今ゝ苫西郡に入てゝあれゝ古へゝ神樂尾と云山の嶺を限りて東へ落る水流れの處ゝ苫東郡に屬したるものと見ゆ市場の前に北より南へ流れ出る大川あり宮川と云川より東ゝ苫東郡也川より西ゝ苫西郡也神樂尾の東へ落る水流れ苫田の郷一郷ゝ川の西ながら苫東の郡にてありしもの と見ゆ此書に苫東郡に苫田郷あり川の東の方にゝ苫田郷なし苫田郷小原ゝ川の西にあり小原村の北も南もみな苫西郡なり古へゝ水流に依て郡郷を分たれたるものゆゑに川の西なゝら小原村一村ゝ東郡に屬したりしならん國府ゝ必水邊の便よき處に建られしもの と見えて小原村水邊にて殊に廣平なる處ゆゑに國府と置れたるならん市場と云ゝ古の國府又驛なと國々に多きことゆゑにこゝも市場と云ゝ國府の地ゆゑに云とみえたり市場の名の遺れる甚面白し小原と云ゝ國府廢れて後原になりてより云にて小原と云よりゝ市場の方古き名と聞ゆこの原村の南につゝきて惣社村ありて苫西郡に屬す惣社とて大社あり古文書なと多く遺りたり美作國惣百十二社を祀りたり此惣社のことゝゝ物に見えてあることと多けれともらし

つ○苫東郡にハ外に國府のあるへき所さらになし小原も惣社も今の津山の城の少し北に至てひらけたる處なり○續詞花集に美作介にて下りけるとき國にて月を見て詠める左京大夫顯輔「すきつらん都のことも問ふへきに雲の餘處にも月を見るかな」此歌も美作の國府にて詠めるなり○英多勝田苫田久米大庭眞嶋邑久赤坂上道御野津高兒嶋にハいにしへハ皆備前國の郡名なりしを北六郡を割て美作國を置れたりさて後苫田を二郡に分ちて苫東（トモタノヒガシ）苫西とせられたるなり是にて管七ようなる六郡共に郷名より起りたる名也○美作國貢物ハ國府より備前國方上の津迄馬にて運ひ方上津より舟に積て登す延喜式にもゆ美作國府より片上迄の路の次第ハ久米佐良山の西を經て弓削郷に至り備前國赤坂郡仁堀の庄峠へ出て磐梨の佐伯へ出松木へ出て和氣の渡をわたり大中山小中山といふを經て至る也古ハ美作國に舟ハなかりしなり○續紀和銅六年四月割備前國六郡置美作國管七今官用十二郡

田萬千二十一町

拾弐抄田萬千六百二十六町（今按正公てハにハ脱たるか）

三段二百五十六歩本穎百二十二萬千束

○主稅式正稅公廨各出萬東

英多安伊多　勝田加豆萬多

三代實錄貞觀二年六月皇大后宮職水田カ町在美作國英多郡今相轉勝田郡公田以英多郡地狹田少國民口多常年不足故也○今勝田郡を二つに分ちて勝南勝北となれり○續紀寶龜八年八月美作國苫田有東西三代實錄貞觀五年五月分苫田郡爲苫東苫西郡勝田郡○今東北條郡東南條郡の二郡となれり○一宮記中山神社大己貴苫田西今西北條西西條久米今久米南條久米北條の二郡となれり大御魂也美作苫東郡苫田西二郡となれり

庭於保無波續紀神護景雲二年五月美作國大庭郡人外正八位下白猪臣證人等四人賜姓大庭臣

眞島萬志萬

英多郡

英多（アイタ）東鑑文治三年八月英多保　閤武（ハヤブ）今按こハエンムにて忌部の轉りたるうまた部省圖帳閤武公穀一千三百六十七束假粟九百六十七丸有餘　吉野（ヨシノ）民部省圖帳吉野庄公穀一千二百六十八束有餘假粟九百六十八丸○今按此郷今一郡の名となりて大野保小原保吉野保弘山郷讃甘庄粟井庄を諸國廢城考大野城大野一族此城に據る康安元年七月管たり　大野（オホノ）山名伊豆守當國に打入けれハ一射をも射す降參す　讃

甘大原（今按今吉野郡に小原あり是なり○民部省圖帳大原役（或作保）公穀八百九十三束有餘山假粟二十九丸）粟井（今吉野郡に廣井（今按今吉野郡に弘山鄉あり井ハ山の誤なるへし）楢原（今英田郡に楢原鄉あり）林野（東鑑文治三年八月林野保○諸國廣城（今按今英田郡に後勢保考林野城（城主未詳）巨勢（あり巨勢を訛れるなり）川會（今按今詳ならす當郡林野後勢英楢原江見の外に別府平野二莊あり是等の中にや○文德實錄嘉祥三年八月英多郡大領外從八位下財山祖麻呂於郡下川會鄉英多河石上獲白龜一枚）

勝田郡

勝田（今按勝南郡なる勝間田なるへし○忠見集みまさかの國加都多にてかつまたのもを「この山やみちのかきりとれもへともかつまたのみゆとをきなりけり」○近藤芳樹云多の上萬字脫せるなるへし吾藩に勝間田氏のあるも皆此處より出たるなり）飯岡（今按勝南郡の南王子備前和氣郡に續紀を引たり考へし○今按不知原の間にあり）鹽湯（湯の鄉と云て溫泉のある處なり勝田の下にひける忠見集のうたに誠にこの鹽湯にてよめるなり然るを上に出せるにたゝ勝田をカツマタと訓む證を見せたるのミさで歌にかつまたとあるに勝田郡のゆなれにな昔より湯ありしことをきかす今に勝田を二郡に分て勝南郡勝北郡といふ故に郡の名を勝田といふことに常人にしらぬまゝに此勝田を湯の名所のやうにれもへるにたかへり）墻月（今按勝北郡に植月鄉あり墻に植の誤ミ今按此鄉詳ならす上に註する外に天歟）香美（野保ありもし香美の名の改れるにや）吉野（今勝北郡に美野是なり）廣岡（今勝北郡にあり）豐國（今勝南郡にあり）新野（東鑑貞應三年九月陸奥守義氏浴新恩美作國新野保以下數箇所○今勝南郡西北にあり）賀茂（今按勝北郡に勝賀茂庄あり但勝に勝田の勝にて苦東の賀茂に分ちて呼へるなり）廣野（今勝北郡に廣野庄あり）河邊（今勝南郡に河邊庄あり）鷹取（今按勝南郡に鷹取庄あり太平記に美作に鷹取某といふ人みゆ）和氣（今按備前國和氣郡に接たる所なるへし和氣郡に引たる續紀の文にてれもふへし今勝南郡にあり

苫東郡

苫田土毛多郡にあり　今東南條郡にあり○神名式高野神社○高野　今按東南條郡にあり同頭注二の宮也○三代實錄貞觀十七年三月美作國高野神　綾部　美和　東鑑文治六年四月西美和　賀和　賀茂　林國　今按東南條郡林田郷あり　しくゝ國ゝ高倉田の誤か

苫西郡

田中　田邊　田邑　布原　今按西西條郡に吉原庄あり　大野　今按西西條郡に天野郷あり　香美　今香々美庄あり　能雜　今西西條郡に野介庄あり　しくゝ大ゝ天の誤歟

久米郡

大井　今坪井宿と云所に大井神社とむかし呼たりし社あり　倭文　今倭文庄あり倭文神社あり　錦織　今錦織庄あり○節用集同　長岡　今按津山の南に長岡神社あり此わたりなり　賀美　今按美ゝ茂の誤か誕生寺東に加茂神社あり　弓削　東鑑壽永三年四月弓削庄〔美作〕○同書□□□□池大納言頼盛卿庄園北ゝ加茂郷を界ひ南ゝ備前を界ひたり○今按弓削郷大氏宮を志呂神社と云弓削廿七ヶ村大氏也廿七ヶ村都て弓削郷なり今ゝ久米郡と二郡に分ちて久米西條郡北條郡と唱ふ大井倭文錦織郷ゝ久米北條郡に屬きたりさて美作の南の方久米　今按に古今「みまさかや久米のさら山」よわか名ゝたてし萬代まてゝわれしなへて弓削郷なり　久米　今按に古今「みまさかや久米のさら山」よわか名ゝたてし萬代まてゝに此山ゝ今の神南山のごとなり左傳多禰荒神山と云所なり神南山の水流の南ゝなへて加茂郷也○盛衰記□□□法然上人と申すゝ本美作國久米南條稻岡の庄の人なり

大庭郡

大庭　續紀神護景雲二年五月美作國大庭郡人外正八位下白猪臣證人等四人賜二姓大庭臣　美和　東鑑文治六年四月美和○今詳なら　河内　久世　今存れり○行靈抄津山より雲州松江并米子へ赴く路に坪井より三里にして久世と云地名有　田原　東鑑文治六年四月布施郷　布勢

眞島郡

眞島萬之萬　垂水　鹿田　大井　栗原　美甘　三代實錄貞觀十七年三月美作國御鴨神○行靈抄津山より雲州松江伯州米子へ赴く道なり高田より三里にして三鴨と云所あり　健部　月出　康正二年造國役引付云美作國月田郷　井原　高田　東鑑文治六年四月西高田郷○應仁武鑑山國廢城考高田城浦上氏兵此城に據る○行靈抄久世より三里にして高田なり

備前

岐比乃美知乃久知國　式名義詳上ならす

日主計式行程同○今按國府の御野郡なることい拾芥抄にも御野府とあれとこれい此抄によりて書たるものなりはやく上道郡にうつされたりとれもはる但府い遷されぬとも郡界のかはりたるもあるへしそのゆゑい平家物語に備前國府邊いはさまといふ所に置率

る云云このいはさまを盛衰記にい湯迫とかけり湯迫い上道郡上道郷にありて湯迫の南に國府市といふ地名殘れり舊き棟札傳いりてろの棟札に備前國百二十八社とありこれ國中の式内式外の神を祭る社なれい京都に神祇官のあるか如く國府に惣社ありしものなりまた國府市に國廳宮と唱ふる小社ありこの國廳といふい即ち國府にある所れ官舍にて京都に太政官あるか如く國府に國廳あるへきことわり也されいこのわたり國府なりしこと疑なし康永元年のこの國の神名帳に上道郡國府神と見ゆれい上に引る平家物語等をあいせ考るに壽永三年のころより康永の頃までの府いこの國府市村なりしこと明らかなりその後廢れたるも官用同○今按延喜式拾芥抄等ミな八郡なり備前國のなるへし　管八　神名帳に十郡あり後に分られたるなるへし備前國八郡二嶋と云も十郡をいふ也即和氣磐梨邑久赤坂上東上道御野津高兒嶋小豆也十郡の内に一宮にある康永元年神名帳上東郡ありこれい上道郡の内居都日下那紀寄田を分て建られたるなり然るに今いまた上道の一郡になれりまた小豆郡あり小豆嶋い古事記に吉備兒嶋の次にあり書紀に應神天皇廿二年九月幸吉備遊小豆嶋とあり大化に諸郡を置れしことい類聚國史類聚三代格に見えたり其時兒

嶋郡をたてられて四郷を置れ小豆嶋ハ三家郷に屬られたりと見ゆ○續紀延暦三年十月勅備前國兒嶋郡小豆嶋所放官牛有損民產宜遷長嶋其小豆嶋者住民耕作焉○兵部式備前國長嶋馬牛牧あり○風土記神名抄に兒嶋郡小豆郡玉比咩社賀嶋玉比咩社とあり備前國神名帳に小豆郡二社玉比咩明神賀島玉比咩明神とあり賀嶋と云も今小豆嶋の内にありしか三宅郷に屬したりと見ゆ備前國八郡二嶋四十九郷保庄園等記に小豆郡とありて庄の名四ツあり尾美池田肥戸草壁なり今も皆存す○節用集に備前十一郡として中に小足釜嶋小嶋として八郡の外に此三郡あり小足ハ小豆の誤字なり慶長の比迄備前國小豆郡といひたり

田萬三千百八十五町七段三十二歩正公各二十八萬千百五十束本穎九十五萬六千六百四十束雜穎十九萬四千三百四束

拾芥抄田萬三千二百六町○主税式正公同　和氣（ワケ）續紀養老五年四月分備前國邑久赤坂二郡之郷始置藤野郡（今按野ハ原の誤也和氣清麿傳に藤原とあり）○同紀神龜三年十一月改備前國藤原郡爲藤野郡○同紀神護景雲三年六月改備前國藤野郡爲和氣郡○民部省圖帳和氣（或輪幾）行程東西二十四里三十歩南北廿七里一百歩○續紀天平神護二年五月

太政官奏曰備前國守從五位上石川朝臣名足等解偽藤野郡者地是溝埴人尤貧寒差科公役觸途困劇承山陽之驛路使命不絶帶西海之達道迎送相尋馬疲人苦交不存濟加以頻遭旱疫戸口減三郷人少役繁何能支辨伏乞割邑久郡香登郷赤坂郡珂磨佐伯二郷上道郡物理肩背沙石三郷隷藤野郡又美作國守從五位上巨勢朝臣淨成等解稱勝田郡鹽田村百姓遠闊治郡側近他界差科供承極有艱辛望請隨所住處便隷備前國藤野郡者奏可（今按美作國の解ハ許されさりしにや備前和氣郡に隷け給ひしまとも見えすまた此抄郷名中にも鹽田といふ郷名も見えねはなりまた按に鹽田の田ハ由の誤にハあらさるか美作國勝田郡鹽湯といふ郷名あり）○同紀延暦七年六月美作備前二國國造中宮大夫從四位上兼摂津大夫民部大輔言和氣郡河西百姓一百七十餘人欵曰己等元是赤坂上道二郡東邊之民也去天平神護二年割隷和氣郡今是郡治在藤野郷中有大河每遭雨水公私難通因茲江西百姓屢闕公務請河東依舊爲和氣郡河西建磐梨郡其藤野驛家遷置河西以避水難兼均勞逸許之（今按これに據れハはしめハ藤野の郷名の野を原に替て郡名とハ一給ひしなりさる例外にも多かりさて次に藤野と改めた和氣と改め給ひしなり）○備陽國誌東ハ播州赤穗佐用両郡にさかひ北ハ作州英田勝南両郡に隣り西ハ東川に至り赤坂磐梨両郡に隣

り南ハ邑久郡に堺ひ海に至る

磐梨 伊波奈須

今按此郡ハ延暦七年に和氣郡河西を分て建られしこと上に見えたるかとしさて磐梨といふ鄉名ハ抄に見えねともとよりろの地名ありしを郡名に負ヽなり此國の事とも書たる和氣絹といふ書に磐梨郡内に岩生(イハウ)村有これをもて名つく云云されハ此も生字を梨に替たるなるへし○古事記大中津日子命者吉備之石無別祖也○新撰姓氏錄賜吉備磐梨縣始家之とあり○國誌南ハ上道郡に界ひ東ハ和氣郡に隣東川を界とし西北ハ赤坂郡の界に至る

邑久 於保久

齊明紀七年正月御船西征始就于海路到于大伯海時大田姫皇女産女焉因名是女曰大伯皇女○國造本紀大伯國造○和氣絹云邑久郡内邑久鄉ありよりて名つく○國誌西ハ東川に至り上道郡に隣り北ハ和氣郡の堺に至り東南ハ海に至る

赤坂 安加佐加賀平

氏云口今善應寺ヶワと云所に赤坂と云名あり○和氣絹云赤坂郡熊崎村のうちにいにしへの赤坂鄉と(熊崎村ハ善應寺ヶワの東麓也)いふありてこれも鄉名によりたる名也といへり○今按今道筋赤坂にありて上道になし赤坂も古の上道の内なるへし國造の子孫なるか赤坂の方にあり○國誌南ハ上道郡に堺ひ東ハ磐梨の堺に至り東北ハ東川を堺ひ和氣郡作州英田郡に隣り北ハ作州久米南條郡に堺ひ西ハ津高郡に至り西大河を堺とす○類聚三代格赤坂郡鄉六とあり今も同し

上道 加無豆美知

國造本紀上道國造○應神紀二十二年九月以上道縣封御伴別中子仲彦是上道臣首屋臣之祖也○國誌東ハ邑久郡に隣り東川を界とし北ハ磐梨郡赤坂両郡の界に至り西ハ御野郡に隣り西大川を界ひ南ハ海に至るいつの比よりか奥口と二に分れたり按天文元和の比の檢地帳に上東郡の名ありて上鄉庄多く今の上道郡の名なり上道郡を分ちて上東郡を置くか又上道を上東とかきしにや詳ならす

御野 美乃

應神紀二十二年九月以三野縣封御伴別子弟彦是三野臣之始祖也○國造本紀三野國造○今按備前首村社家に傳たる文永元年古文書に三野村とありろれよりてのかた寛文五年迄三野と書り寛文五年に式に依て御野に改む○和氣絹云御野郡郡内に御野村ありてれとも名つく○國誌東ハ上道郡に隣り西ハ大川を限り今ハ川筋かはりて竹田村西河原村濱村此川の東にあり西北ハ津高郡に隣り南ハ海に至る

津高 和氣絹云津高郡内に津高鄉あり横井村のことなり○國誌東ハ西大川に限御野郡赤坂両郡美作國久米南條郡に隣り北ハ西大川に至り同國久米北條郡眞嶋郡の界に至り西ハ備中國上房郡加陽郡都宇郡三郡に界ひ南ハ海に至る

兒島 古之末

神代紀次生吉備子洲○欽明紀十七年七月備前兒嶋郡○敏達紀十二年十月吉備兒嶋屯倉○續紀延暦三年十月備前國兒嶋郡小豆嶋○三代實錄元慶六年十二月兒嶋郡野永爲濱人所獵野○東鑑元暦元年十二月平氏云云搆城郭於備前兒嶋之間佐々木三郎盛綱云云勵武意不能尋乘船乍乘馬渡藤戸海路○國誌此嶋凡東西九里南北二里城府の南二里にあり此嶋北を內海といふ古い西國往來の舟路なりしか年經て後干潟となり中比墾田して備中の地につらなる○赤水長崎記行云備前川口より藤戸川口迄海めぐりてある故に兒嶋といいふなりとそ○山家集備前國に小嶋と申嶋にわたりけるに

和氣郡

坂長 佐加奈加 兵部式坂長驛馬二十疋○民部省圖帳坂長公穀一千九百六十七束有餘田假粟九百六十七丸○平賀口氏云播磨と吉備との堺に舟坂と云坂ありろれらよりれこれる名なるへしこの舟坂い平家物語十郎藏人の代官妹尾にうたれて逃て京へ上るか播磨と備前の界なる舟坂山にて水曾殿に行逢奉り○忠見集播磨國府の次に同し所の舟坂山にて詠る歌みゆ○太平記備前と播磨の堺なる舟坂山の頂にかくれふしなとある所にてこれにて坂長の在所を知へし驛い今の三石の驛か(平家物語に備前の國三石の宿)

藤野布知乃帳 上に引る續紀延暦七年六月移置藤野驛於河西○民部省圖藤野庄公穀一千八百九十七束有餘田假粟八百九十三丸○長門本平家物語別の渡といふ所より東藤野寺といふにて○國人正宗直胤云和氣清麻呂墓今福昌山寶成寺と云寺にありといへり○今按赤松再興記長祿三年六月廿日赤松衆備前國三箇保へ入部す三箇保とい三石藤野吉永也

益原 萬須波良 今同○七あるか中に益原あり○民部省圖帳益原公穀一千六十八束假粟無貢目

新田 爾布多 平賀口氏云今の入田村の邊古の新田の鄉なり別に新田新庄と云あり○國誌庄八あるか中に新田あり○太平記綱目(十三附翼遺諫篇)天下の爲に力を盡したる兒嶋に備前國新田庄を賜る○後太平記赤松兵部少輔政則南帝を殺し奉り神璽をうはひ取都へ入奉る此恩賞に加賀國備前新田庄を賜る○赤松記備前國新田庄○上月記備前國新田庄○赤松再興記永正十六年十二月浮田能家三石の城爲後巻出張す備前國新田庄安養寺居陣也○和氣に新田庄い香々登村れ事此(今按にこれいたがへり)

香止 加々止 今按本文止い訓注の止と誤り混したるものとみも登字なる

へし○續紀文武天皇二年四月條儒備前國人秦大兄賜姓香登臣○同紀天平神護二年五月に香登とあり○國誌庄八あるか中に香登あり

磐梨郡

和氣　和氣郡の名これより出たるなり○今按續紀神護景雲三年六月備前國藤野郡人別部大原といふ人名ありこゝいまた磐梨の郡と分れさるほとのことにて別部といふも和氣部なり○盛衰記□□加賀國住人倉光三郎云云備前國和氣の渡りより東に藤野寺と云古御堂に郡名これより出たり○文德實錄嘉祥三年八月磐梨郡少領外從八位上石生別公長貞於郡下り居て

石生　伊波奈須下石生郷雄神河雄白龜一枚○節用集石生

那磨　今按兵部式珂磨驛馬二十疋とありまた續紀天平神護二年五月にも珂磨とあれゝ那ゝ珂を誤れる也さて珂磨ゝ天平神護二年に赤坂郡より佐伯の郷とともに藤野郡に隷られし郷名なること上に詳なり○盛衰記□□珂眞郷惣官頼隆と云人みゆ

肩背　加多世　今按上道郡より天平神護二年に隷けられしこと郡の部に載たる續紀の文にて考へし○今も肩背の郷とよへり

磯名　次にいへり○平賀氏云佐伯の誤なるへし續紀に佐伯郷みゆさて類聚三代格備前國磐梨郡郷六とあり今も佐伯とあり

物部　今按續紀神護景雲三年六月御野郡人物部曁等とあれは御野郡に隣き所なるへし但平賀氏の説に物部といふゝ今ゝなしこゝ物理を紛ひ誤りて重ねたるなるへし

物理　毛土呂井　續紀神護景雲三年六月藤野郡人毋止理部奈波また毋等理部ともあり○和訓栞もとゝものゝ轉ろゐの反りなり○節用集同○平賀氏云いま物理坂根と云あり其あたりをすへていへるなり○今按天平神護二年に上道郡より肩背沙石の二郷とともに隷せられしよし郡の部に引る續紀の文に見えたりさて沙石郷といふか後に磯名などに改りたるにゝあらさるか考ふへし

邑久郡

邑久　於保久　續紀天平十五年五月備前國言邑久郡新羅邑久浦漂着大魚十二隻○國誌村里の内に邑久郷と云あり

勅負　國誌郷五の中勅負あり○平賀氏云百廿八社中に邑久郡勅負神社といふあり

土師反之　京城萬壽禪寺記貞治五

年寶餞相君以備前土師郷易越中佐味庄○大嘗會式に備前國所造云云とて脛以下十五品の土器を載たるも皆この土師より出すなり○國誌村里七十三載たる中に長松古名土師とあり

須惠 土師の陶器を作りし處なるゆゑの名也

長沼奈加奴 國誌云民間の私記に慶長の比の郷庄を載たる中に長治あり〔今按若しいこれらにやこの地名古書に所見なしいこれらにやこの地名古書に所見なけれい物部と同しく重なりたるものか〕

尾沼乎奴 國誌村里七十三載たるに尻海あり〔今按若尾張村い尾張氏の居し處なるへし神名式御野郡尾針神社尾治針名具若比女神社あり尾張氏に針名連舊事紀にも新撰姓氏錄にも見え

尾張乎八利 平賀氏云いま尾張村といふあり

たり○國誌保二須惠尾張とあり

杯梨 平賀氏云こいいま村名にいなし永祿九年十月に寫したる備前國八郡二鴈四十九郷保庄園等の記と云もの丶中に杯梨の郷見えたり又慶長九年備前國物成帳と云ものにも杯梨の郷あり○國誌云民間の私記に慶長の比の郷庄の名として載たる中に杯梨あり

石上 伊曾乃加美 古語拾遺以天十拳劔云云其名天羽々斬今在石上神宮○神代紀一書云其斷蛇劔號曰蛇之麁正此今在石上也又一書云以蛇韓鋤之劔斬云云其斷蛇之劔今在吉備神部許也○平賀氏云いま磯上村といふあり其邊れ

しなへて石上郷なり赤坂郡石上布都之魂神社といことなりこの石上い備前國鑿を石上丙親王に賜ふと云てと續後紀か類聚國史かに見えたるやうに覺ゆ○古事記傳石上い一書に吉備神部許ともある から備前國赤坂郡石上布都之魂神社これなりといへりまことに一わたりいたれも云かれもいるれとさにあらす其故いさしも名高き倭なるをたきて吉備なるをたゝに石上といいひてんや若吉備のならいかならす吉備石上なとゝてろいふへけれされはなは倭の石上なるへし云云然るを吉備にあるよし神代紀に見えたるい後に故ありて備前へ遷し奉りしなるへし其時倭の石上の神宮かさる劔槍なとの類の神寶と藏めたる御社なるにより其名を取て石上布都魂神社といい中しゝならんいかにまれ石上布都魂と云名い必倭のより出たること明きをやかゝれい書紀又拾遺に在石上といへるい初倭に坐し時の傳へ說なるへし撮要○國誌云民間の私記に慶長の比の郷庄の名として載たる中に磯上とあり

服部波土里 應神紀二十二年九月以織部縣賜兄媛是以其子孫於今在吉備國是其緣也○平賀氏云いま服部村といふあり其邊れしなへて服部郷なり東鑑に備前國住人服部左衛門六郎と云もの見えたり此處の人なるへし○國誌福里〔古名馬塚〕服部〔以上二村服部庄〕とあり

赤坂郡

周迺節用集同○和氣絹云周迺村とあり○國誌郷に周迺平岡とあり **宅美**國誌云民間の私記慶長の比郷庄の名として載たるに宅見とあり○今按にいまゝ此郷名なし伊田村の邊なりとろ **輕部**國誌云庄四の内に輕部あり又民間私記慶長の比郷庄の名として載たるに輕部式高月驛馬二十疋○國誌云民間私記 **高月**兵部式高月驛馬二十疋○國誌云民間私記 **鳥取**國誌云部あり慶長の比郷庄の名として載たるに高月あり庄四の内に鳥取あり又民間私記慶長の比郷庄の名として載たるに鳥取あり **葛木**今按兒嶋郡三家に引る書紀葛木山田直瑞子まゝの人なるにや○國誌云民間私記慶長の比郷庄の名として載たるに葛木あり

御野郡

枚石比良之今按いま牧石と誤れり牧石郷の中に平瀬と云所あるや昔のなこりなるへき **廣世**比呂世今存れり○平賀氏云これゝ三野河の流れの海へ落る所瀬の廣き故に廣世と云針田山〔今半田山と誤〕より南を廣世郷とす今岡山町ょ廣瀬町と云もありまた北方南方竹田三村を廣世郷とす備前國四十九郷の記に弘西と書たり今弘西郷と唱ふるゝ大なる誤 **出石**伊豆之和氣絹云岡山城下出石町ゝ昔の出石村なり當時繁昌にて上出石を今の野田町に移し下出石をゝ今ゝ仁王堂町に移して猶次第に繁昌に付また今の西川端を廣瀬に移せり○平賀氏云按に出島の義歟書紀或書に但馬の出石を出島ともかけりこの邊古へゝ海にてありしと次々の郷名にても知へし **御野**美乃太平記美濃とあり○平賀氏云いまゝ三野と書り原村宿村三野村の三村を三野村と云原村宿村の山を三野山と云催馬樂に「みのやまにゑゝに生たる玉かしはとよのあかりにあふかたのしさ」これゝ三代實錄に備前國和氣郡を次基とせられし時の歌なり體源抄催馬樂注に三野山備前國とあり仁智要錄に三野山の注に備前國由基風俗とありこれゝ次基の誤か宗尊親王御自筆催馬樂注にも備前國とあり古今六帖によるに此歌よみ主大伴黒主とあり「小異あり」こゝに三野川と云もありこに上道郡今在家と云より三野村に渡る渡場あり今ゝ絶たりこれを三野の渡といへり貞世道行ふりに福岡につきぬ云云ろれよりてなたに川あり三野の渡りと云「古郷もこひしからめやあつま路れみのゝわたりとれもゝましかは」から川とかや云處にとゝまりて云云

とあり○國誌村里七十七あるかうち原宿三野已上三村三野庄とあり

伊福 伊布久 平賀氏云まれい津嶋と云嶋の内にありし郷名なり今ハ新墾となりて上伊福村下伊福村といふいにしへの伊福の郷ハ別所西崎三門石井寺國守なと云所古昔の伊福郷なり尾張の郷ハいひし尾張氏の同流伊福氏の居し所なり上道郡脇田山古文書に伊福兵庫助と云人あり○常山紀談赤松兵部少輔政則元成(津高郡金川村玉松の城主松田左近將監元成)を賞して伊福の郡に置ぬ

津島都之萬 國誌云郷六つあるか中に津嶋あり又民間私記慶長の比郷庄の名とて載たるにも津嶋とあり

津高郡

驛家 今按兵部式驛馬津高十四疋十二本木と云山より南をすへて驛家郷とす吉備の中山ハ驛家郷と備中の間にある山なりこの驛を後世辛川宿と云○盛衰記辛川宿板倉宿とならべ書たり○太平記左馬督直義備中福山城を攻落して辛川迄十餘度戰ひ辛川宿に一日逗留あり○同記大將辛川に陣を取○和氣絹云馬矢郷○國誌郷五つの内馬屋と云あり

賀茂 神名式津高郡鴨神社○國誌山の部に賀茂山又本宮山と云南北五里東西二里と有

津高 兵部式津高驛馬十四疋○盛衰記佐々迫と云所ハ東西ハ高き山谷に一つの細道あり云々後にハ津高郷とて谷口ハ沼なりけれハ究竟の城なり○和氣絹云今の横井村のことなり○國誌郷五つの内津高あり

健部 應仁武鑑佐々木較智紀伊守高持居城備前國津高郡健部京都より四十八里○國誌云民間私記慶長の比郷庄の名とて載たるにも建部とあり

兒島郡

三家 美也希 欽明紀十七年七月遣蘇我大臣稲目宿禰等於備前兒嶋郡置屯倉以高木山田直瑞子爲田令○國誌郷に三宅林とあり(今按三家を三宅に書改めしハいとふるきことなるへし太平記なる兒嶋三郎高德も三宅氏なり)

都羅 行甕抄庭瀬城下舟路より北の方に兒ゆ天木嶋較敷津良嶋是ハ備前の内より備中の堺迄地つゝきの南の浦々

賀美 平賀氏云これハ賀茂の誤なり神峯より西角山又瑜伽山なり賀美の峯より東を賀茂峯と云神名式兒嶋郡鴨神社あり郷名

も社より起たるなり今賀茂郷木目村の高雄山と云處に賀茂宮といふありこれへ詣つる路に南にも西にも賀茂路のタワといふ坂あり又賀茂川と云川もありこれらを以て思ふへしといへり　兒島古之萬　神代紀次生吉備洲疏云小嶋在備前國海中也○舊事紀吉備兒嶋建日方別○萬葉集(六)やまと路の吉備乃兒嶋乎○梅松論備中の河原と備前の兒嶋の間三里○御成敗式目追加熊野御領備前小嶋庄あり

上道郡

今按こは御野郡の前に入へき歟郡部御野郡の上に入たり民部式神名式等みな御野郡の上にあり

宇治　國誌郷六つあるかうちに宇治あり○平賀氏云これは雄嶋といふ嶋にありし郷名也　幡多　應神紀二十二年九月天皇自淡路轉以幸吉備國遊于小豆嶋庚寅亦移居於葉田葦守宮(今按玄かある葉山こゝなるへし)○國誌郷六つあるか中に幡多あり又民間私記慶長の比郷庄村里一百一載た　可知　上道　國誌郷六つあるか中に上道あり　財出　國誌郷六つあるかうちに財あり(今按はやく田字を省きたりとみゆ)　居都　日下　平家物語草加部○國誌草部とあり○盛衰記壽永二年閏十月四日兼康は先立て草壁と云所に馳付て　那紀　寄田

和名抄諸國郡郷考卷之十一終

和名抄諸國郡郷考卷十二

富永春部纂述
男準清校

山陽道下

備中

吉備乃美知乃奈加國式上 神遺方吉備乃中國○殘風土記備中國者云云郷七十一所内神龜年中有改里爲郷者○備中西國巡禮記備中國十一郡東西九里廿九町廿間〔東賀陽郡宮内村備前境西後月郡高屋村備後境〕南北廿三里三十四町三十間南玉嶋村川口北阿賀郡實村之内小原村伯耆境〕

國府在賀夜郡行程上九日下五日 主計式行程同○平賀氏云今八部郷に國府あり北國府南國府と唱ふ北國府と南國府の間に御所と唱ふる所ありこれ古への國廳の有しところと見ゆ又北國府に國府と家號に呼ふ家あり其西に惣社あり備中國惣三百二十四社を祭る 管九 拾芥抄或河上或上方○今按今川上郡とてある

ハ中昔下道郡より分れし郡なりといへり上方今上房といへり併て十一郡なり　田萬二百二十七町八段二百五十二歩正公各三十萬束本穎七十四萬三千束雜穎十四萬三千束拾芥抄田万八百八十三町○主税式正公同

都宇津

平賀氏云今ハ界かいりぬれと古の津宇と窪屋の界にあたる處に今も原津と云處あり○兵部式備中國驛馬津嶋〔今按嶋ハ坂の誤か〕○今昔物語古本に備中津坂と見えたり○圓通大師一代記と云ものに報恩大師備中津坂の宿を通る○今按今も津坂鼻といふ所あり こゝより南へ坂をこえて原津へ出此津ある故に都宇の名ハつきたるか

窪屋

久保也雄畧紀元年三月吉備上道臣女稚媛とある側に一本云吉備窪屋臣女とあるこれなり

賀夜

應神紀二十二年九月以上道縣封中子仲彦是上道臣香屋臣之始祖也○舒明紀二年正月娶吉備國蚊屋采女○郡名考官用賀陽○國造本紀加夜國造○神名式賀夜郡吉備津彦神社○一宮記吉備津宮○慶長板節用集賀屋○拾芥抄賀陽○今賀陽郡とかきカヤウと云○備中府志賀陽郡八郷○同書上房郡六郷とある ハ此郡の刑部郷己下六郷の名なれハ此郡わかれて後に上房郡とハなりたるならん

下道之毛豆美知

應神紀二十二年九月分川嶋縣封長子稻速別是下道臣之始祖也○國造本紀下道國造○今ヲモミヤと云○指掌圖下道〔訓志毛美知〕

淺口

安佐久知風土記此郡東ロロロロ○續紀靈龜二年八月備中國淺口郡犬飼部厲手

小田

乎太風土記此郡土地中農民用多郡正南有神三座號小田大神宮所祭瓊々杵尊天兒屋命天口種子命也○靈異記上少田郡とかけり○節用集小田東西とあり

後月

七豆木安閑紀二年五月備後國後城屯倉○風土記此郡東西九里一十二歩南北六里五十歩

哲多

三代實錄貞觀八年十月備中國哲多○今ヲッタと云○今按姓氏錄大和神別額田部低田連あり低田ハ哲多と一つか

英賀

阿加英賀○慶長版節用集英賀〔上下〕○指掌圖英賀〔有上下〕○備中西國巡禮記阿賀郡○官用阿賀

都宇郡

河面

加波毛

今按今ハ賀茂と書けとも誤也大井河の河面の義なり賀茂社あれともこれも河面社なるへし○備中西國巡禮記河面村西條枝柿名物

撫河

奈都加波日本紀略備中國撫河郷箕嶋村○今按今ハ皆新田にて古の撫河ハ日畑と云處のあた

り也○元亨釋書寛治四年備中國撫河の郷柴津崗云云これも日畑の邊なるへし今の撫河ゝ崗なとのある處にゝあらす宮内の三日市迄撫河郷なり其處の古棟札に備中國都宇郡撫河郷三日市とあり今ゝ加陽郡宮内村に屬たり○府志撫河村小倉城あり○寛知集撫河村

深井 布加井 府志深井庄別府村萬壽城あり○今按備前一宮の社家三老に深井氏あり此郷より出たる家なり○備陽國誌松嶋矢尾黒崎以上三村深井庄とあり○備中名勝考深井邑今ゝ別府といふ○平賀氏云別府ゝ島羽嶋のうちの小名にて別府にかきるにゝあらす名義ゝ二子村の高島居山の山本に涌出る眞清水あり夫を深井といふてれよりれてれる名なり大嘗會歌集後一條院長和五年十一月二日主基方備中風俗參入音聲深井郷善滋朝臣爲政天下君に仕ふる諸人ゝ深井のさとの深き心にまた島羽嶋といふ嶋ありこれも深井郷の内なり後に此嶋の東を分ちて妖尾郷を置しと見えて東鑑に妖尾郷あり

驛家 今按兵部式驛馬津嶋二十疋とある驛家なり今窪屋郡に隷て廢れたり

窪屋郡

大市 於布知 今按三代實錄三卷に備中國人大市貞繼と云人あり今倉敷日間の山にしなへて大市の郷なり古へこれを日間嶋とよひたり○神名式足ア智名勝考窪屋郡生坂村の舊名東阿智なる高神社もこゝに坐すなり阿智正德年間の碑に東阿智と云るしたるものあり倉敷にまちかき地也○今按淺口郡にも同郷ありこれゝもと其地廣かりしゆゑに東西にわけて東を窪屋郡に屬け西を淺口郡に屬けたミるもの也

三須 平賀氏云三和の誤りか下の三須の訓注を上へ誤たるなるへし大和法隆寺文書に備中國三和郷あり當國惣社の文書に三和の郷あり三和郷ゝ今三和郷三輪村あり百射山の西の氷流れ望坂より西淺原峠より東を三和郷とす

美質 眞壁 萬加倍 備中西國巡禮記眞壁村○平賀氏云姓氏錄に眞髪部武彦命之後也とあり和銅に地名を二字に改められし時に眞壁となりたるなるへし○太平記ロロロ備中より眞壁氏あり○國誌眞壁溝口八日市以上三村眞壁郷也

輕部 加留倍 備中西國巡禮記輕部村○姓氏錄和泉皇別輕部云云雄略天皇御世獻加里之郡仍賜姓輕部君（今按これらの氏人のすめりし地か）○國誌輕部村栃木村古池村黒田村以上四村輕部郷也

賀夜郡

庭妹 爾比世　今按妹い妹の誤也鎮火祭祝詞に妹とあり宮内の賀夜國造家文書に庭妹とありまた藻鹽草にいもせ川を妹妹川とあるなどをなせとよむ法也平家物語備前備中の堺庭せの郷吉備の中山有木の別所と見ゆ庭妹れ郷い即ち今の宮内の社地也今の庭瀬い新田也○民部省圖帳庭妹公穀一千九百六十七束假粟八百三十六丸○行靈抄庭瀬は大社に板倉一宇とありてれ吉備津宮四至の内にてろの板倉のありし地なるへし○平家物語備前備中両國のさかひ細谷川をれひにせる吉備の中山のふもと板倉の郷○盛衰記板倉城○太平記板倉川板倉の橋など見えたり○今板倉村といへりとぞ　**足守** 安之毛利　武鑑賀陽上房郡足守○應神紀二十二年九月亦移居於葉田葦守○元亨釋書葦守○三代實錄寛平八年十二月葦守郷其妻淫奔入京良藤鰥居心神狂亂○風土記阿志守郷○寛知集及備中國西國巡禮記足守上下両村あり○今按今足守の舊蹟ありといへり又此國の古文書ともにもみな足守とありとぞ　**大井** 於保井康正二年造内裏段錢○三才圖會自松山巳午至蘆森七里　幷國役引付備中國大井村○寛知集及備中西國巡禮記大井村○名勝考大井村　**阿宗** 安曾寛知集及備中西國巡禮記阿曾上下両村　**服部** 波土今八田部村○行靈抄八田部自板倉到于此三里○寛知集及備中西國巡禮記八田部村　**生足** 今按備中西國巡禮記に門前村に奇石あり生石と云とみも足い石の誤か古文書にいみな生石とあるよし也高松田部村　**八部** 也多倍　**刑部** 於佐加倍節用集同○寛知集及備中西國巡禮記刑部村　**日羽** 比波康正利今もはつとり村あり　**多氣** 東鑑寛喜三年七月備中國多氣庄○康正二年造内裏段錢幷國役引付に備中國多氣庄○府志上房郡六郷之内にて二年造内裏段錢幷國役引付等持院領備中國日羽郷段錢○國誌宋粟見延槇谷以上三村日羽庄○今も村名にあり今ヒッの如く唱ふと國人いい　**有漢** 宇萬府志上房郡六郷之内にて長代村片岡土田村有納村黑土村なとある村々を竹庄とあれい郷とも庄とも唱けるにや村上村なとある村々を有漢とあり○今按今有漢東鑑寛喜三年村有り然るに宇萬と訓るいいかゝなは考へし　**巨勢** 七月備中國巨勢庄○備中西國巡禮記古瀬庄廣瀬村名物大高檀紙　**大石** 於保之

下道郡

穂北保伊多今按毛利家に穂井田氏あるいこれより出たるか　八田也多寛知集及備中西國巡禮記矢田村○同書八田村鳥嶽城石田次郎爲久　邇磨爾萬今按本朝文粹三善清行意見封事皇極天皇の御代に兵二萬人を得たるにより二萬の郷といふことをゆ文長きもそにこゝに引かす又太平記□□天武天皇與大伴王子天下を爭いせ給ひける時備中國二萬里といふ所にて何處より來れるとも去らす爽なる兵二萬餘騎天皇の御方に出來て大友皇子の御勢を十方へ懸散らすこれよりして其所と二萬の里と名付らるゝ云々「君か代い二萬の里人數そひて絶すろなふる御貢物かな」と周防内侍の讃たりしも此こゝろにて餧ふなり云々なとあり　曾能ゝ應神紀二十二年九月以苑縣封兄蒲凝別是苑直之始祖也○寛知集て太平記い意見封事をあやまり引たるなるへけれとも二萬郷の名義いれなし○金葉集藤原家經「みつきものはこふよはろをかろふれは二萬の里人かすろひにけり○方角抄二萬郷板倉の橋宿あり海道なり吉備津宮より西なり○寛知集及備中西國巡禮記二萬村○風土記二萬郷○備中巡禮記二萬村に二萬塚あり○節用集二萬里

閣村秦原波多八瓦　備中巡禮記秦村上下あり○同書上秦原い秦武文の生する所なり　水内美乃知寛知集及備中巡禮記水内村○府志下道郡十郷之内にて水内村に山本の城あり　釧代久之呂府志下道郡十郷之内にて山田村なと同郡に出せり山田村に鬼身城あり○同書久代村に福田城あり○寛知集及備中國巡禮記久代村　近似知加乃里寛知集及備中巡禮記川上郡近似村○玉勝間十の卅三丁を考へし　成羽奈之波三才圖會松山西至成羽二里○府志川上郡六郷の内成羽村といふもあり○諸國廢城考成羽城三村孫兵衛尉親成此城に據る　弟翳勢餘材抄翳いせひゝきをそへたる字なり紀伊の伊のことし○道行ふり云河邊川せい山なとうちこえてとあるせゝ山即これ也さて弟字をせと訓むい神代紀によりて思ひたかへたる訓也○名勝考妹山下道郡妹村に妹山市場といふ所ありまた或人の説に猿掛山といふといへり今按猿掛い毛利家より皆を擣て上方勢を防きし所なり此村名をいまい妹とかけり都宇郡妹尾村氏の妹尾みな妹せとよめりされとみな妹の誤なり上にいへるか如し　穴田安奈多府志川上郡六郷之内也○神名式下道郡穴門山神社　湯野由乃備中西國巡禮記西湯野村苅穂城細川天竺三郎○府志東油野

村西油野村　河邊加波乃倍　兵部式河邊驛馬二十疋○名勝考下道郡河邊村○夫木抄川邊里大藏卿隆教「ゑろたへのなゝもしつけき色見えて川邊のさとにさける卯花○三才圖會松山南至川邊六里又川邊至江戸百八十二里　吳妹（クレセ）府志下道郡吳妹あり○今按妹ハ妹の誤也賀夜郡庭妹の條考へし　田上多加美　府志下道郡十鄕之內に田上鄕あり

淺口郡

河知　今按に河ハ阿を誤れるか○名勝考云和名抄淺口郡阿智今西阿智村あり又た窪屋郡今倉敷村に阿智町といふ街名あり此の二村郡いたがへれどいとちかしいにしへいろの西南の方海にて阿智潟の海といへるこれなりと舊說あり○府志窪屋郡倉鋪村東西に兩阿知あり阿知の明神倉鋪に鎭座のよし西阿知東阿知の中央なれハ倉鋪を阿知潟といへるむへなり　間人　萬無土神遺方に間人久壽理備乃中國間人定守等所傳方元武內宿禰乃方奈里○今萬无土といふ地名なしとそ　船穗　布奈保攝津親秀顯能直分とある條に備中國船尾鄕○備中西國巡禮記舟尾上下兩村あり　占見　宇良美　川村　加波無良太平記河村　小坂　乎佐加太平記小坂○今按に今東小坂村ありといへり○備中西國巡禮記小坂東西兩村あり○同書東小坂村杉山城小坂　林　八也之　備中西國巡禮記口林村あり（今按越中守に此林の鄕の口なる由ならむ）　大島　於保之萬　今按名勝考にいまも同しさまに見えたりいにしへハ海の中に有しところなりといへり○備中西國巡禮記大嶋村

小田郡

實成　美奈利　府志東三成村茶臼山城山本城あり西三成村中山城あり○備中國巡禮記東三成村あり　拜慈　波也之備中國巡禮記　草壁　久佐加倍　太平記備中國草壁庄○行靈抄草壁庄此小林村あり　內橫谷村　小田　乎多　兵部式小田驛馬二十疋○備中國巡禮記小田村○府志小田村神戸山城あり　甲努　加布乃　備中巡禮記甲努村　魚緒　伊保須奈　今按緒ハ渚の誤なり　驛家　小田鄕のなるへし　出部　伊都倍

後月郡

荏原江波長　備中西國巡禮記江原東西兩村あり○府志東江原村に高越城西江原村に小菅城中堀城あり　縣主安加多　府志縣主鄉内李村なとあり○國造本紀吉備中縣國造○今按これ中縣ハナガタと訓へし倭姫命世記吉備名方濱宮紀國造家記にも吉備名方濱宮元々集にも名方濱の圖みゆこゝハ縣主なれハ異なるやうにもあれと安加多ナガタ通音なれハなほ同しからん歟　出部以豆倍　備中西國巡禮記出部上下兩村あり　足次安須波　節用集同○今按神名帳○府志出部村戸木荒神山城あり

に足次山神社を旁訓にアシツキとあるハ誤にてアスキ也然れハ波ハ岐の誤なり

哲多郡

石蟹伊波加爾　盛衰記一谷城攝の條に平家の人に備中國石賀入道といふあり○寛知集石壁村○備中西國巡禮記石賀村○府志哲多郡石蟹村に石蟹山城有　新見爾比美　今按天武紀元年六月高田首新家をニヒミと訓たれば新家の義なるにや○太平記新見○備中西國巡禮記阿賀郡に新見村○東寺古文書備中國新見庄○東寶記後醍醐天皇天下一統之初元弘三年九月一日被寄附三箇所地頭職(備中國新見庄)○諸國廢城考新見城三村宮内少輔元範(元親弟)此城に居る○備中府志英賀郡之内新見村あり　神代加無之呂　神鳳抄備中國神代野御厨○備中西國巡禮記神代上下兩村あり○府志上神代村見坂山城下神代村中田山城あり　野馳乃平賀氏云馳ハ邊の誤訓注の知ハ倍の誤なり○神鳳抄備中國知野邊御厨あり當國惣社なる永享元年の記錄に野邊鄉あり　額部奴加多倍　大飯於保比

英賀郡

中井奈加都井　名勝考阿賀郡中津井村○府志中津井村に佐井田城○寛知集及備中西國巡禮記中津井村○今按神名式井戸鐘乳穴神社また式社考に在井戸尾村之内井戸野　水田美都多　康正二年造内といへり此中つ井も此等の井によれる名にや

裏段錢并國役引付に花藏院領備中國又水田庄水田鄉ともあり○寛知集水田村○橘南溪西遊記に備中國水田領の山中に俗にかねち山と稱する洞穴ありかねちといふことなり(今按てれ即神名式鐘乳穴神社によしあるごと也)○府志水田庄内　皆部安多

府志上皆部村高釣部城下皆部村に丸山城あり○今アザベと云○備中西國巡禮記皆部上下両村あり○今按に注の多い濁音に呼へしザをダと云いキザハシをキダハシといふ類也淺口郡にも同郷ありまた小田郡にい拜慈とかけり

刑部於佐加倍 府志小坂

部村割龍山城因防城なとあり○寛知集小坂部村

丹部多知倍 寛知集及備中西國巡禮記多治部村○拾芥抄宮城部云備中備後二國造達智門丹治氏也とあり○盛衰記一谷城搏の條に平家の人に備中國多治部太郎といふ名あり

林郷

備後吉備乃美知乃之利國式上

國府在葦田郡行程上十一日下六日主計式行程同 管十四今官用同○拾芥抄十五郡吉刀郡といふあり

田九千三百一町二段四十六歩正公各二十四萬束本穎六十二萬五千束雜穎十四萬五千束拾芥抄田萬九千一百九十八町○主税式正公同

安那夜須奈 古事記傳肢上宮卷注阿那臣云云傳云書紀景行卷穴海安閑卷に婀娜國なとある地にして和名抄備後國安那郡あれなり○國造本紀吉備穴國造纒向日代朝御世和遅臣同祖彦訓服命孫八千足臣定賜國造記傳に此姓の事近江國坂田郡阿那垂仁紀吾名邑とあるこれなり又美濃國郡上郡安那あり然るにこれらをはきて備後國なる安那としも定むることい國造本紀によりてなりさてこれを備後の安那とするにより大坂をもかのくにならんといい云なり云々夜須奈といい安那といふことを嫌ひて後に唱へかへたるものなり此例他國にもあり○續紀養老三年十二月停備後國安那郡置茨城葦田郡常城

深津布加津 續紀深津郡○萬葉集(十二)路後深津島山暫君目不見苦有

神石加女志 天武紀二年三月龜石郡○類聚三代格延暦二十四年十一月太政官符謹奏備後國神石奴可三上惠蘇甲奴世羅三谿三次等八郡調絲相換鉄鐵事云々右八郡僻居山間土宜採鐵不便養蠶所輸絹絲營求多苦因茲承前國司屢請停絹絲令輸鉄鐵謹奏者奉勅依奏此事後紀にもみゆまた三代實錄貞觀七年八月備後國神石奴可甲努惠蘇世良三谿三次三上八郡居山間土宜採鐵連年旱疾黎庶幣亡四年之間毎年四郡更復課役

奴可奴加 今按盛衰記□□平家の人に奴賀入道といふあり

こゝより出たる歟

沼隈　奴乃久萬　神名式沼品治保牟知　續紀和銅二年品遲○國名前神社　造本紀吉備品治國造

葦田　安之太　續紀養老三年十二月備後國葦田郡また同紀神護景雲二年二月備後國葦田郡　甲奴　加不乃　今按郡いつれの御時にかさたかならねと葦田郡より分ち置かれしなるへし委しく郷名の所にいへり　三上　美加三　惠蘇　出雲風土記に備後國惠宗郡とあり○釋日本紀引備後風土記曰疫隅國社北海二坐志武塔神南海神之女子乎與波比爾坐爾日暮彼所蘇民將來二人在伎兄蘇民將來甚貧窮弟蘇民將來富饒屋舍一百在伎爰塔神借宿處借而不借兄蘇民將來借奉即以粟柄爲座以粟飯等饗奉饗奉既畢出坐後爾經年率八柱子還來天詔久我將奉之爲報答曰汝子孫其家爾在哉止問給蘇民將來答申久己女子與斯婦侍止申即詔久以茅輪令著腰上隨詔令著即夜爾蘇民與女人二人乎置天皆悉許呂志保呂保志天伎即詔久吾者速負佐雄能神也後世仁疫氣在者汝蘇民將來之子孫止云天以茅輪著腰上詔隨詔令著即家在人者將免止詔玉伎○鴨祐之云蓋改疫隅爲惠蘇所謂郡里等名取嘉名或著好字此也　御調　三豆　東鑑建仁四年二月備後國御調　世羅　三代實錄貞觀七年八月世羅　三谿　美多爾　靈異記備後國三谷郡　三次　美與之　太平記○○○三善○行靈抄三好○鴨祐之云此郡有上次播次下次三郷故以三次爲郡名者乎

安那郡

天家　高迫　三谿　拔屋　大坂　驛家　兵部式安那驛馬二十疋

深津郡

中海　大野　大宅

神石郡

神石　志　今按志字ハ加女志と神石の訓に書たりしか加女二字れちて志字のみ別になりたるか郷名に混ひたるなるへし　高市　今按康正二年造内裏段錢幷國役引付に備後國神石郡高老郷とある同所歟　三坂

奴可郡

刑部（節用集同）　道部　斗意（地名字書轉用例云意い才の假字なり）　三上

沼隈郡

津宇（今按越後國頸城郡なると同義なるへし）　赤坂　春部　諫山（豐前國京都郡にも同し名あり）

品治郡

驛家（兵部式品治驛馬二十疋）　品治　狩道　佐我　石茂（今按石茂い今の岩成にいあらさるか但今のい誤れるもしりかたし福山志料と云ものに水野家の時福嶋家より引渡帳にい川南川北一村にて麓村と云西邊に二十軒屋と云所ありもと人家ありて一村落なくろの村中に高屋川流れその南を川南分と云しよしなりされい麓村と云い山に近北所のみなるへし今驛用を南北二村にて供す二村を神邊と云むかし神邊の庄と云い岩成より東渚村の總名なりしよしなり）　神田（三代實錄貞觀二年二月正六位上神田神授從五位下）　服織

葦田郡

佐味　廣谿　葦浦　都爾（今按續紀養老三年十二月葦田郡常城とあるいこゝなるへし）　葦田（靈異記次葦田郡於葦田竹原）　驛家

甲奴郡

矢野　甲奴（今按續紀和銅二年十月備後國葦田郡甲奴村相去郡家阻遠百姓往還煩費太多仍割品遲郡三里隸葦田郡甲奴村とあるによれいはしめい葦田郡の邑名なりしを後に此郷名を取て甲奴郡を置給ひしもの也）　田總

三上郡

多可　信敷（東鑑建久三年十二月信敷庄○康正二年造内裏段錢幷國役引付に等持院領備後國信敷庄）　土木　神代　三上（今按三代實錄備前國三上神眞賀山神とあれと備前にい三上と云も眞賀と云も古今文集にもさらになきよしなれい備前の前

ハ後の誤にて備後の三上なるへし

惠蘇郡

惠蘇（エソ）　春部（カヘ）　刑部（オサカヘ）

御調郡

伯多　姓氏錄未定雜姓和泉國伯太首注天表日命之後者不見　柞原美波良　三才圖會三原○行靈抄自三原到尾道行程三里糸崎本原なといふ所を經て行といへり　者度　伊都土節用集同○兵部式者度驛馬二十疋○今按者ハ都の缺たるにハあらぬか或云伊都土今ハ宇都度といふといへり然ともウットハ柞原より八里も隔たれハ糸崎にハあらぬか　佳質加之土　小國乎久爾　今世良郡に屬す　周島與乃之萬　節用集同○今按行靈抄因島自桃島至于此海上二里阿斧兒より四里とある因嶋にて周ハ因の誤にハあらぬか　歌島宇多乃之萬　東鑑文治六年三月歌嶋○行靈抄堂崎淨土寺の前の海に出たる所なり歌嶋淨土寺の向ひにあり和泉式部の歌ありと○道ゆきふり云をのゝちの浦にいたりつきぬこの所のかたちハ北にならひてあさちふかくいはほこりしける山ありふもとにそひて家々所せくならひつゝあゝはすはとの庭たにすくなし西より東に入うみ遠く見えて朝夕のゝちひいとはやりかなり云云此向ひたるかたによてはれる嶋山ありむかし此所をらうしける人和歌のみちにすける心ふかきあまりにれりたつ田子いりぬる海人までも歌をなんよませつゝもてけうしけるよりやかて此所とうたのしまといふとろ

世羅郡

桑原（クハバラ）　大田（オホタ）　東鑑文治二年七月爲仙洞御願爲被宥平家怨靈於高野山被建立大塔自云五月一日被行嚴密御佛事而供料所以備後國大田庄加御手印今日所被奉寄也○同書承元二年三月高野山大塔料所備後國大田庄○金剛峯寺寶庫所藏文書奉寄進高野山大塔備後國大田庄山中郷地頭屋敷并田地陸町等事云　津口（ツクチ）　今存三原より八里程西也　鞆（トモ）　延元二年十二月廿四日左兵衛尉三善資連張（ハリ）　今按續紀天平勝寶四年二月鞆を作る工人（ヒト）を鞆張といへりされハ鞆を作る工人なとの住たりし所なるへし今の戸張村かとある人

いへり鞆浦とゝ異也

三谿郡

三谷　松部　江田（ヱダ）太平記□□（スカダ）江田　額田（オヽカヘ）　刑部

三次郡

上次　播次　下次　布努（ヒロヌ）慶正二年造内裏段錢幷國役引付に備後國布野郡とあり〔今按郡ゝ鄉の誤歟〕

安藝阿岐國式上　今按名義ゝ此抄に鰓阿岐（アキト）止魚類也とある鰓より出たりと名義考にいひて仲哀紀の渟名門の故事を引て詞花集ゝ大江匡房卿「春くれゝあちかたの海ひとかたにうくてふ魚の名ころをしけれ」この味潟ゝ安直（アナカ）潟のカを一ッ略きたる也沼田郡安直〔安知加〕これなりといへれとも國名ゝ安藝郡安藝鄉より出たるなるへけれゝ鰓の說もうへなひかたし別に義あるへし○國造本紀阿岐國造　國府在安藝郡行程上十四日下七日主計式行程同　管八今官用同　田七千三百五十七町八段四十七歩正二十三萬束公二十二萬八千百束本穎六十三萬千三百束雜穎十七萬三千二百束　拾芥抄田二萬七千八十四町○主稅式正同公二十萬八千八百

東沼田奴太仲哀紀二年六月到渟田門食於船上時海鯽魚多聚船傍皇后以酒灑鯽魚鯽魚即醉而浮之○仁德紀三十八年七月安藝渟賀茂（カモ）田續後紀天長十年十月安藝國言賀茂郡人風早審麻呂德行懿美孝養自厚　安藝（アキ）末田種守云安藝中古の書に安南安北と二つに分れたるを元祿の頃より今の郡名に定りたりとそ　佐伯佐倍木仁德紀三十八年七月天皇自苑餓野有聞鹿鳴其聲寥亮而悲之共起可憐之情及月盡以鹿鳴不聆與皇后居高臺避暑時每夜愛天皇語皇后曰當是夕而鹿不鳴其何由焉明日猪名縣佐伯部獻苞苴天皇令膳夫以問曰其苞苴何物也對言牡鹿也問之何處鹿也曰苑餓野時天皇以爲是苞苴者必其鹿鳴也因謂皇后曰朕比有懷抱聞鹿聲而慰之今推佐伯部獲鹿之日夜及山野即當鳴鹿其人雖不知朕之愛以適逢獵獲猶不得已而有恨故佐伯部不欲近於皇居乃令有司移鄉于安藝渟

田是今淳田佐伯部之祖也（今按かくありて此郡これによしあり○方角抄佐伯山在所分明ならす嚴嶋いにしへは神主い佐伯氏○一宮記伊都岐嶋神社（天照與素盞烏誓給生三、女）内市杵嶋姫）安藝佐伯郡○廣嶋申酉の方宮嶋あたりすへて佐伯郡なり○末田種守云中古佐東佐西とわかれたれとこれも元祿山縣夜萬加多高宮太加三也廣嶋の艮の方に今のことく定りたりとろ文德實錄仁壽にあたれり高田太加太廣嶋の艮の方沙田萬須多今沙作豊止與太にあたれり

三年十月安藝國佐伯山縣沙田三郡

沼田郡

今有（イマアリ）すいま沼田（ヌタ）廣嶋城下より戌亥の方まてすへて沼田なり○諸國廢城考沼田城沼田四郎此城に居る○平家物語河野介通清か子息通信安藝國へれしわたり沼田郷に引てもる○節用集怒田里○日向記建久九年六月頼朝より工藤三郎祐時に恩給ありし諸國の庄の内に安藝早川奴田庄船木布奈木下の安藝郡に古事記傳を引たるに同義なるへし○今豊田郡にあり

安直（安知加）眞良（新良）兵部式眞良驛馬二十疋○三代實錄貞觀三年十月備後國云々天照眞良建雄神（今按かくあるいていにしあるか）○備後三原梨葉奈之波兵部式梨葉驛馬二十疋○備後三原より四五里西○今豊田郡にあり西より四里都宇（ツウ）兵部式都宇驛馬二十疋

賀茂郡

賀茂（カモ）志芳之波（今志芳郷八箇村あり○今存廣嶋加倍川上にあり造○建武三年十一月本國寺造營文書安藝國志芳庄）果佐宇加（今造家とうけり）高屋多加也（今存高屋郷と八箇村あり）入農伊比乃（道行ふり云沼田の里を過て入野といふ山里を通り侍るに此處いむらし小野のたかむらの故郷とてやかてたかむらとも申侍るとかや○今も入野といへり）訓養也萬久爾（今按訓のことくなるときい養訓なるへし但し節用集にも訓養とあり）香津（カツ）木縣（兵部式附木綿驛馬二十疋）大弓（オホユミ）

安藝郡

漢辨 今按今加部と云地あり是か加部より備後の三好へも石州濱田へも行道ありと行靈抄に見ゆ 彌理美利 河内加布知 田門多土 幡良波良 今存○今加茂郡に屬て原村あり 安藝 船木布奈木 推古紀二十六年八月遣河邊臣於安藝國令造船 養隈也乃 今按隈を乃と訓たる例なし也乃久萬とありしか久萬の二字闕たるなるへし 安滿安萬 今按嚴嶋圖會に治承四年に清盛より安麻庄を寄進ありと神庫文書にあるよし見えたり 驛家 今按兵部式安藝驛馬二十疋とあるてゝなるへし 宗山 今宗山村あり

佐伯郡

養我 種篦 兵部式種篦驛馬二十疋 綠井 今存○今沼田郡の内にて麻を出す地なり 若佐 伊福 續後紀天長十年十月佐伯郡人伊福部五百足 桑原 海 今按に海田なるへし○行靈抄自四日市海田まで○道行ふり云かひたとかやいふらにつきぬ南にい深山かさなりふもとに入海のひかたはる〳〵とみえ北の山きはに所々家あり 嗜濃 今按兵部式濃嗜遠管とあるいもしい本抄の誤にはあらぬか○近藤芳樹云名義抄に嗜正と見えたりかゝれい漢音セイなり即二字にてセノと訓へし○道行ふり云瀬野といふ里ありみな山あひの細道也と有はてゝゝ 建管 今按建い遠を誤れるなるへし○三代實錄貞觀十七年十月安藝國遠管驛驛子○兵部式遠管驛馬二十疋 驛家 今按上の驛家なるかまた萬葉集(五)安藝國佐伯郡高庭驛家とある是歟 大町 今大町村とい へ 七茂 今土茂村といへり○建武三年十一月本國寺造營文書安藝國吉茂郷とありてゝか り

山縣郡

賀茂 壬生 東鑑元久元年七月安藝國壬生庄地頭職事山形五郎爲忠與小代八郎等相論之間就守護人宗左衛門尉孝親注進狀今日於御前被決遠州并廣元朝臣等被候御前是將軍家直令聽斷政道給之始也○嚴嶋神庫嘉應三年文書公家方并建春門院御祈禱料伊都岐嶋壬生庄田七十六町畠十一町○今壬生村と百間許の町本地より丑の方へ二里許 山縣 品治 建武三年十一月本國寺

造營文書下品地郷○今本地とかけ宇岐り廣嶋より北の方八里はかりあり

高宮郡

刈田加無多　内部宇知倍　竹原多加波良　康正二年造内裏段錢幷國役引付云藝州竹原庄○今賀茂郡也竹原廣嶋より東十里○行靈抄自御手洗右の方磯邊に高原と云所見も入海の奥なり　高宮多加美也　丹比多無比　建武三年十一月本國寺造營文書多治保○今丹比村あり　訓覓久留倍木　今按枕草紙くるへきのもりとあり抄に八雲御抄にもえれかたしとありもしいこゝのくるへきにかあらぬにや○節用集同○和訓栞云和名抄蠶糸具に反轉をよめり糸をくりてへる具なれゝ名つけりいまも東國にゝえかいへり所によりてかせわともまひはともいふなり枕草紙にくるへきのもりといへり安藝國の郷名に訓覓をよめるも字音を用ひたれと意ゝ反轉と同一かるへし○建武三年十一月本國寺造營文書安藝國郡戸郷とあるてゝなるへし○今久留米木村といへり

高田郡

三田美多　嚴嶋神庫古文書に仁平四年院廳幷國司廳宣を以て當國高田郡三田一郷を神領に定めらる廣嶋より六里三山村あり　豐島止之萬　廣嶋より十二里豐嶋村あり　風速加佐波也　今按萬葉集〔十五〕風速浦船泊之夜作歌二首わかゆゑに妹なけくらし風早能宇良のわきへに霧たなひけり〕とよめるゝ此所かといふ説あれと集を檢するに前に備後御調郡長井浦歌を載せ其次にこの風速の歌を載せ次に安藝國長門嶋云云とあれゝ風速浦ゝ方角抄に備後としたるに從へし高田郡のうちに海なし今風速浦といふゝ加茂郡のうち也廣嶋より十里程あり今速を早に作れり　麻原川立加波多知　船木布奈木　粟屋安波也

豐田郡

豐田登能　今戸野村あり廣嶋より十三里許東　能美ノミ　大内家壁書從山口於御分國中行程日數事安藝國能美嶋四日請文

十三日○建武三年十一月本國寺造營文書能見庄　訓芳　建武三年十一月本國寺造營文書久芳保　安宿　椹梨　近藤芳樹

云類聚名義抄椹メクハノミ字鏡に椹桑實とありかゝれゝクハナシと訓へし

周防須波宇國式上

名義ゝ近藤芳樹云須波と訓へし本國都濃國二俣神社ゝ神名式に見えたる古社なるを此社の古文書に建御方神の出雲より此周防國に逃來て隱れ居給へるを建御雷神又追來給へりしかゝ須波と云てこゝより信濃に逃去り給へるよしを記して國を周芳と號るゝ是よりれてれりといへり按にスハと（ニハカ）ゝ事の急に逼（セセ）りて驚く時の言にて今ももはらいふ言なり今昔物語にすはされば（セセ）とあるを和訓衆に驚く意に云りといへるか如し建御方神の此所に隱れ居たらむにゝ知るものあらしと思召て忍ひ居給へるを思ひもかけすまた追來られてスハと驚き逃去給ひしよりこの須波といふ詞の國名となれることと疑なし信濃の諏方も和名抄に須波とあれゝ同義なるとこゝゝ建御雷神の追往き給へる時スハと驚きいしたまひつれと終に追伏られて他處に行じと誓て即ち鎮り坐る也されゝ出雲より直ちに信濃にいさり給いてまつ周防に來給へる也然るを古事記ゝろのとゝまりませる地につきて傳へたるものなれゝ古事記傳に引たる伊勢津彦の古事をも考合せて周防に逃來給へる傳のうきたる事ならぬを辨ふへし名義考等の說ゝみなひがこと也○國造本紀周防國造○續紀文武天皇二年九月防作（ヲ）芳○同紀天平六年九月制安藝周防二國以大竹河爲堺（今按いまこれを小瀨川といふ）

國府在佐波郡行程上十九日下十日　主計式行程同　管六今官用同　田七千八百三十四町三段二百六十九歩正公各二十一萬束本穎五十六萬束雜穎十四萬束主計式正公同　大島（ヤヽ）板本此郡を脫せり鄉名部を以て補ふ○神代紀伊弉諾尊伊弉冊尊云云次生大洲○萬葉集（十五）過大嶋鳴門而云云（これやこの名にれふ奈流門のうつしはにたまもかるらんあまをとめとも）○國造本紀大嶋國造○大內家壁書從山口於御分國中行程日數事大嶋郡四日（但嶋末に至りてゝ五日請文到來日限十五日）○東鑑文治四年十二月廣元知行周防國嶋末庄事云云周防國嶋末庄地主職事右件庄者彼嶋大嶋之最中也大嶋者平氏謀反之時新中納言攝城居住及旬月之間嶋人皆以同意自爾以降爲二品蒙御下知

件嶋被置地主職之所也毎事守庄務之例更無新儀之妨被尋搜之處定無其隱歟但於別御定者不及左右候旱隨重仰可進退候

玖珂郡

音如鵝　續紀癸老五年四月分周防國熊毛郡置玖珂郡○大内家壁書玖珂郡三日（但山代の庄に至りて四日）請文十三日

熊毛郡

末計　今按續紀天平二年三月周防國能野郡牛嶋西汀とある能い熊をあやまりたるか同紀天平三年に周防國熊野郡とありまた熊野の野いこれの毛を誤たるなるへし式にも此抄にも能野といふ郡名の見えされはなり上毛野下毛野のいまい上野下野となりたる類にても熊毛野にいあらさるか猶考ふへし○大内家壁書熊毛郡三日請文十一日

都濃郡

尼兒田嶋足尼定賜國造○大内家壁書都濃郡二日請文十一日　高津朝紀臣同祖都怒足

佐波郡

二年九月到周芳娑磨時天皇南望之詔羣卿曰於南方烟氣多起また仲哀紀八年正月參迎于周芳沙麼之浦而獻魚鹽地とあるを以て考るに烟氣多起とあるも鹽を燒く烟也この佐波い今も鹽田いと多くあり て凡諸國にて鹽田の多かるい此處を最とす其外土産いと多くて諸書に載せたりされい佐波い土産の多なるより起れる名なるへし○萬葉集（十五）佐婆海中○續紀天平神護元年三月佐波郡○大内家壁書

音馬　推古紀十一年二月周芳娑婆○近藤芳樹云景行紀十

從山口於御分國中行程日數事佐波郡一日請文七日○今按長門の萩府より出る道に佐波山といふ村ありまた宮市驛につく處にさは河といふあり ろれより三田尻のあたりすへて此郡なり○中古大内家山口在城の時いこの佐波の内なる宮市を城下の市場と定められたり宮市と稱ふるい松崎天神の宮あるもそにかぐいへりしなりより で宮市に兄部（ヒノカベ）といふ者を置て市價を掌らしめきこれ東の市也また吉敷郡の内に津市といふ所あり今いッイチといへと舊くい津の市といひしこと宗祇の記行なとを始め諸書に見ゆこいい商船の着く津なりしゆゑに津の市といふこれ西の市也かく山口ハ爲に東西に市を置たりしに吾藩になりて萩に城を築かれしよりこの両市も有名无實になれりと　吉敷興之岐　國造本紀波久岐國造度會延佳云波久近藤芳樹いへり　岐可作興之岐疑今周防國吉敷郡○今按已上五郡にして上に管六とあるい大嶋郡の闕たるなり鄉名の處にも民部式上ともあり○大内家壁書從山口於御分國中行程日數事吉敷郡一日請文七日

大島郡

屋代　源貞世の鹿苑院殿嚴嶋詣記緒方とかやいふいおはたき川とて安藝と周防の國のうちに室積なといふ處々北にみゆ屋代の嶋伊豫の國道前の山なと南にあたりてかすみつゝ波のうへにうちけふりたり〔今按に室積い周防國地方にてよき所なり大嶋郡の内にいあらす〕

美敷　務理

玖珂郡

玖珂　岩國の西五里許　柞原　今按此字備後の鄕名に見えて美波良とあり柞字美と訓むの訓義を知らすこの柞原もかれに倣ひて猶美波良と訓むか近藤芳樹云此あたりに木原といふ地名ありてれに依れい杵字の誤にてキハラ歟杵い字饒に支爾とあれと名義抄にいキとのみ訓たれいキハラ餘戸　野口　今存○兵部式野口驛馬二十疋○橘爲仲朝臣集宇佐ならんかといへり猶考へし使よまかりしに周防國野口のうまやにとまりたるに月いとあかし〔かへりてい古鄕人にまつとりんこよひの月いかくやをえしと○行靈抄岩國の柱野より金明寺峠を經て玖珂野口とあり　多仁　今存小村なり　由宇　行靈抄岩國の西津々の浦のつゝきに由宇の浦あり　大野　今存岩國の西南なり　伊實　今按實い寶の誤にて伊保鄕なるへし　驛家　今按兵部式石國驛馬二十疋と有こゝなる　石國　行靈抄岩國○萬葉集〔四〕周防在磐國山を越ん日いたむけよくせよあらきろのみち○名所方角抄東安藝をせ川より西い周防なり南に大山あり海邊石國に出ていにしへの海道なり○鹿苑院殿嚴嶋記行に宮嶋より西國にはもむかせ給ふに小方とかやいふい大たき川とて安藝周防の堺の川ろひのうみつらすきて岩國ゆふむろをかなといふとところとゝゆ○盛衰記一の谷城搆の條に平家の人に周防國にい石國源太維道といふ人あり○大内義隆記〔弘治元年〕陶尾張守入道い安藝の境周防の岩國と申處に在陣あり

熊毛郡

周防　續紀寶龜十年六月周防國周防郡人外從五位下周防凡直葦原賤易公自稱他戸童子誑惑百姓配伊豆國〔今按當時い周防れ郡といふもありしかまたい鄕を誤れるにいあらぬか考へし〕○今小周防といふ　熊毛　久萬介　萬葉集〔十五〕熊毛浦船泊之夜作歌四首とある中に〔おきへより鹽みちくらし可良能宇良爾あさりする田鶴なきてさわきぬ〕〔今按可良の浦も此わたりなり〕○近藤芳樹云今熊毛

神社のある所なるへし多仁（タニ）　美和（ミワ）今存　全戸（ヤスヘ）今按マタヘと訓むへき歟命に全戸とあれとこゝの地名にあつかる事にハあらす　驛家今按兵部式周防驛馬二十疋と有ハこゝ歟　波濃

都濃郡

久米（クメ）行靈抄今市より下松に至間久米村あり○近藤芳樹云今存驛也　都濃（ツノ）近藤芳樹云今存驛なり　富田止無多源貞世紀行に富田といふ浦につきたり西北とかけて入海はるかにて小嶋ともの名も去らぬかいくらもうちつゝきたり○大内義隆記陶の尾州未た五郎と申で若かりし時戀慕の心ありて富田へかよひ給ふ路次まて出迎松ケ崎の寺にてあひけるか○行靈抄富田自德山到于此一里半○近藤芳樹云今存驛なり　生屋（イクヤ）近藤芳樹云今存驛なり　驛家今按兵部式生屋驛馬二十疋と有るこゝなるへし　平野（ヒラノ）近藤芳樹云今存　驛家今按兵部式平野驛馬二十疋とあるこゝなるへし

佐波郡

牟禮（ムレ）近藤芳樹云今存牟禮鄕也　多良（タラ）今按多々良なるへし○大内義隆記百濟國の王子琳聖太子と申せしか日本國周防國多々良の濱へ定居二年に來迎し大内に住居し給ひ國の守護所の人を緣として民百姓をしたかへ武英を以て國を切取事つゝかなく次第次第に繁昌して義隆卿に至るまて廿六代年の數の數をかそふれハ九百四十年とろみえにける○中國治亂記琳聖太子本朝欽明天皇の御時日本に渡り多々良濱に居住あり種々の珍寶と奉獻けれハ則多々良の姓を賜り多々良濱より富田の奥の大内畑と申す所に移り乘福寺と云處に居住ある今も大内と號し舊跡あり　佐波（サハ）豐後風土記纒向日代宮御宇天皇云云從周防國佐波津發船而渡泊海部國宮浦豐後なは郡條にいへり　日置（ヒヲキ）比於木近藤芳樹云今佐波郡の内にハあらす○出雲風土記考へし　玉祖（タマノヤ）多萬乃於神名式玉祖神社○三代實錄貞觀九年三月周防國從四位上玉祖神也授從三位○近藤芳樹云今佐波川を西へわたりて大崎といふ所に鎮坐一の宮なり○一宮記玉祖神社伊弉諾男玉屋命周防佐波郡　餘戸（アマヘ）　神戸（カムヘ）　勝間加都麻兵部式勝間驛馬二十疋○節用集勝間浦○古事記神代卷造无間勝間之小船云云の所の傳に云籠の編る竹と竹との間の堅く密りて目のなきをいへり萬葉

集〔十二〕に玉勝間とあるもこの物也細注に此鄉名所々にありそな此物によれる地名と聞えたりといはれたり○藻鹽草勝間浦すはう〔思ひ出よ千世のねかひのけふことにかつまのうらの岸のひめまつ〔今按にこの歌ハ元輔朝臣のうたなり集にハ二の句千年の春のとあり はし書にすハうかつまのむまやとい ふ所にて子日し侍りしにとあり

吉敷郡

八田 行藪抄金華山八田原村〔茶店多し〕圯〔八田川に渡す小流なり〕○今按今矢田村とて萩の東南八里程にあり宮市より萩へ越ゆる路な 宇努 今按今宇野とて山口町東にあり宮市より萩へ越ゆる右手にあり 仲河 今按矢田に並て仲河村といふあり 益必 節用集あけ也介比止ひとゝ訓り 神前 多寶 續紀天平二年三月周防國能野郡牛島西汀吉敷郡達理山所出銅試加治錬並堪爲用便令當國採冶以充長門鑄錢〔今按達理の理と寶といつれか紛ひたるにハあらぬか 八千 今按兵部式八千賀驛馬二十疋とある同所なるへし○近藤芳樹云今陶と云所を永祿天正のころの古文書に矢地と書たるものあり 賀寶 兵部式驛馬二十疋に八千の下賀の一字あるハ寶字を脫せるにて即こゝの賀寶也今賀川と云所あるハ道行ふりにも出たる處なるか舊くハカヽホと云けんをハホの通音にてカヽハとなり終にハ賀川と川字を書やうにも轉り來れるなりと近藤芳樹いへりまた同氏云今長門周防界賀川といふ所あり賀寶 浮囚 今按浮ハ俘の誤なり 廣件 鄉歟

長門 奈加度國 式中

拾芥抄弘仁九年三月改長門國爲鑄錢司長門元云穴戸○國造本紀穴門國造○名義は近藤芳樹云拾芥抄に長門元云穴戸とあれとも誤にて長門と穴門とハ其所てとなりさるゆゑに書紀を考ふるに長門と穴門とをまじへ書たり全く穴門を改て長門にしたるにハあらす長門とハ豐浦の海を北へ出ていはゆる向津大濤へ門の長くさし出たるにより て負せし名也穴門とハ今の豐浦の赤間關の處いと狹くて穴の如きより負せし名なり然るに穴門といふ名の雅ならさるを嫌て長門のみにしたるハやゝ後也委ハ防長國名考に載せたりといへり 國府在豐浦郡行程上二十一日下十一日 今の長府なり

○主計式　管五　今按管五とありて郡名六つあれと郷の部に至りてハ行程同　見嶋の郡といふハなくて大津郡の郷名に見島といふありそれかとそれもハるゝろの見嶋ハ大津郡より十八里はかり洋中に離れたる島にて昔より或ハ別に一郡とせられ或ハ大津阿武等の郡に併せられなとし　田四千六百三町四段二百三十一歩正公各十てさだまらすとなり

一萬束　本頴二十六萬千束　雜頴十四萬千束　拾芥抄田四千六百六十六町○主稅式正公各十萬束

厚狹　安豆佐　中國治亂記長門に厚東と豊田と周防に山口なんと申宮方の大名ありて○厚狹もと厚東厚西とあり分れたりしなり○大内家壁書に厚狹と厚東とあり　豐浦　止與良○國府　仲哀紀二年六月豊浦津○續紀神護景雲元年四月長門國豐浦團毅外正七位上額田部直塞守獻錢百萬稻一萬束授外從五位上任豐浦郡大領下にも引たり○宗祇筑紫道記仲哀天皇の皇居ハ豐浦といふらなるへし○一宮記住吉神社底筒男中筒男表筒男也長門豊浦郡○方角抄府中なり皇居の社壇ハ南向なり東西に遠干潟有與津平津とて二ッ嶋有干滿の二珠を納めらるゝとなりをちひのしまと中なり沖なるか滿珠なり與津なり汀ちかきか干珠なり平津なり

○大内家壁書　豐東郡豊西郡　美禰岑　大津於保津　續紀天平寶字三年三月太宰府言云云據警固式於博多大津及壹岐對馬等要害之處可置船一百隻以上以備不虞今按この大津か即仲哀紀に向津野大濟也向國の下にいへり今ハ大津を二郡に分て萩城に近きかたを前大津といひ國造本紀阿武國造○方角抄安武松原遠きかたを先大津といふ　阿武　世俗ょあんの郡といふなり長門の國の北なり長門ハ西南ハうみなり「はかなしや心つくしに年を經ていつともわかぬあふの松原○東鑑文治五年三月長門國阿武御領ハ平家所領にて候へハ實平自西國下向時知行仕候き又氏部式になる相繼遠平沙汰候つれ共不背御定之趣令沙汰云畢」　見島　シマ　し○近藤芳樹云主計式大津阿武西郡とある西郡を見嶋のことにやといへる人もあれとこハ両の字の誤なれハ舊くハ見嶋郡ハなき也和名抄にハ後に加へたるなり今も見嶋とて一郡にハあれと阿武へ屬したりむかしハ大津に屬したりといへり海上十八里許も北なり萬葉に長門なるたきつかり嶋とあるハこれ也○大内家壁書寛正三年八月晦日文書貞永式目之旨にまかせ流刑に一定せしめ訖者早件之両人を長門國見嶋に可送遣之狀如件○三才圖會三嶋（或爲見嶋）在自萩城下亥子海上十八里

厚狹郡

見穂（ミホ）　小幡乎波多　厚狹安都佐（今アサといふ九州往來にあり）　久喜（クヤ）近藤芳樹云今存いかなるよしにて久喜といふか義詳かならす仲哀紀に洞海云云鈴屋翁云久伎い久具理にて山下の洞をくゝりて舟の往來し故の名なるへしといはれたる洞海いこゝ二處布多井にあらさるなり　神戸（カムヘ）　驛家今按兵部式厚狹驛馬二十疋と有てゝなるへし　良田與之多行甕抄吉田（自麻布至于此二里二十町許）或い今市とも吉田の小屋とも云となり○大内家壁書吉田郡とあり○今吉田とて九州往來にあり　松室萬都也近藤芳樹云今存吉田の近邊也

豐浦郡

田部多倍近藤芳樹云今存小月驛より二里北萩街道なり　生倉伊久　室津無呂都今按今存長府の南北六七里許也中古外國の使者の着岸せし津也名義いムロツミ津の略なるへしムロツミい書紀に舘字を訓て外國人の居所をムロツミといふそのツミの二字を略きて負せたる名か此所に外國人の着しこと古書に多しと近藤芳樹いへり　額部奴加倍續紀神護景雲元年四月長門國豐浦團毅外正七位上額田部直云云授外從五位上任豐浦郡大領　驛家　栗原久利八良近藤芳樹云今存日内宇都比今按内日の轉訛にや節用集にもかくかけり今もあり　神田加無多清末より十丁許長き石橋のある所なり

美禰郡

美禰　渚鋤須々木　位佐井左近藤芳樹云今存今伊佐と書けり大田より南三里半許　作美（サミ）近藤芳樹云今存○兵部式賀萬（カマ）類聚國史嘉祥四年十月長門國鹿集福賀麻呂能參美驛馬三疋　峰壬峰四神加從五位下（今按ゝくある賀麻呂ゝなるへし萩より西七里許）　驛家今按作美のより西七里許なるへし

大津郡

三隅美須美神鳳抄長門國内宮三隅御厨〔上分十石〕○日向記工藤三郎祐時か嫡子次郎祐朝に遠江國早河長門國三隅庄并奥州鞭指の庄松山をも讓得てありしゝ後に安藝國奴田庄を領し給ふ早河殿と申なり○大内家壁書長門國三隅庄○近藤芳樹云萩より西五里許

深川布加波江濃記天文十二年八月廿八日大内殿山口を落行給ふ處を陶尾張守追かけ長州深川と云處の大寧寺といふ禪寺にて同九月朔日大内義隆御生害○鎌倉大草紙上杉憲實入道を雲洞院高岩棟長巷主と稱し長門國深川大寧寺と中會下寺にうつしれき云云寛正七年三月六日深川大寧寺にて終り給ひけるなり○萩の西八里程○近藤芳樹云今存温泉のある處なり

日置比於木今存へキミシマ今按に郡名に見嶋といへり

三島あるゝこゝなるへし

向國武加津久爾仲哀紀八年正月自穴門至向津大濟爲東門○今按東鑑文治二年八月向津庄また向津奥庄なとすへてこゝをいへるなりいまも嶋戸の崎の北の方に向へる地に向津といふ地ありて今按厚狹郡の例によ

一處フタヽヒ今按厚狹郡の例によムカツタと呼ふれいフタヽヒと訓へし

神戸カムヘ

驛家今按兵部式三隅驛馬三疋と

あるこゝハ姓氏錄稻妻右京皇別田中朝臣條云武内宿禰之

稻妻伊奈女後也〔今按其外にもありこれらの氏人の住めりしなるへし

阿武郡

阿武アムヘ近藤芳樹云今存○節用集にアフと訓たり○今按に古歌にあふの枡板とよめりあふの松原もこゝなりといふ人あれといかゝ

椿木都波木梅松論長門安武郡椿の浦の船頭孫七○今もありて萩城下の南方なり

大原於保波良近藤芳樹云今存

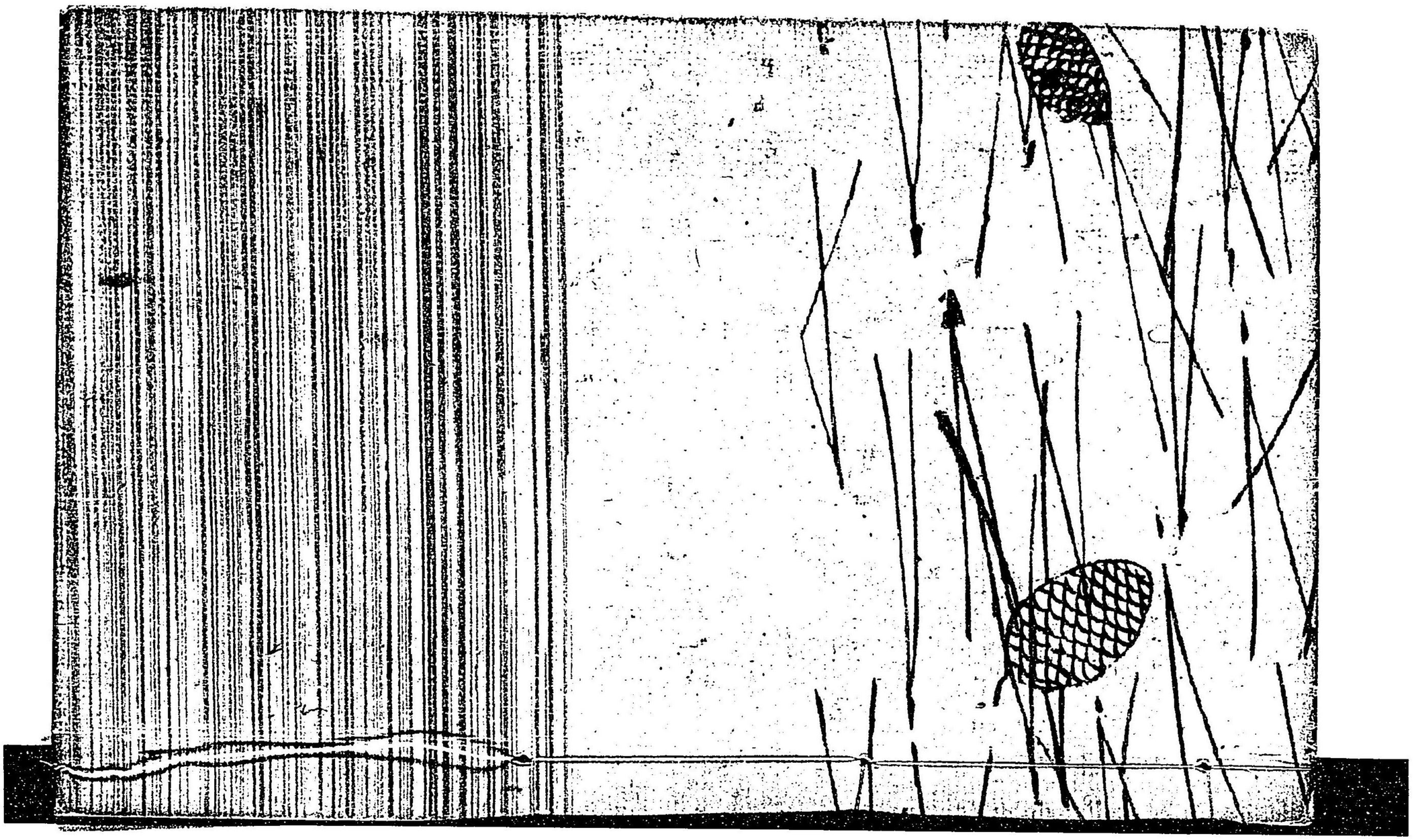
宅佐近藤芳樹云今德佐と呼る是也萩より艮の方十三里許

多萬タヽヒ近藤芳樹云今存

住吉須美與之今按今萩の城下に住吉社あり

神戸カムヘ

驛家今按兵部式阿武佐驛馬三疋とあるこゝなるへし

これら然れ共古書に所見なし

和名抄諸國郡鄉考卷十二終